



CSR Report

ふれあい報告書 2012

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI[®]

ブランドコミットメント

ひたすらに“ありがとう”を集めます

ただただお客様の“ありがとう”が嬉しくて
ただひたすら、お客様の“ありがとう”を集めてきた
これからもこの姿勢を貫き通します。

今の時代に合わないと言われても
ワタミの社員は家族です。同志です。
会社はそこで働いている一人ひとりが
会社そのものなのです。

持続可能な“ありがとう”があふれる社会
を目指し、さらなる“ありがとう”を
集めてまいります。



地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI®

ふれあい報告書2012

■「ワタミグループCSR報告書」発行にあたり
「ふれあい報告書」というタイトルは、私たちの活動の根幹である経営理念からネーミングされました。私たちは、人として、社会の一員としての責任を果たし、事業活動を営む一方で、できる限りの社会貢献に取り組んでいくことが大切だと考え、「できることからコツコツと一歩ずつ」を基本に創業時より努力してきました。

2011年の環境・社会活動報告書の発行からはじまり、同年より、この考え方に基づく行動を「ふれあい活動」と名づけ、グループのブランドテーマに「環境とともに、社会とともに、人とともに」を掲げ、毎年、環境および社会貢献に関する報告書として、また2006年からはステークホルダー（利害関係者）の皆様との関わりについても記載し、CSR報告書として発行しています。

本報告書を通じて、皆様の温かいご理解と貴重なご意見を頂戴することができましたら幸いです。

■編集方針

本報告書は、その年の特集（ステークホルダーの皆様に関心が高い事項）に加え、ワタミグループの活動や取り組みをわかりやすくご紹介させていただくことを目的に、ステークホルダーの皆様ごとに掲載しています。

本報告書では、
□各ステークホルダーの皆様にご覧いただくこと
□各ステークホルダーの皆様にご覧いただくこと
□各ステークホルダーの皆様にご覧いただくこと
□各ステークホルダーの皆様にご覧いただくこと
□各ステークホルダーの皆様にご覧いただくこと

なお、本冊子に記載されている内容は、「ワタミふれあいホームページ」でもご覧いただけます。
(<http://www.watami.co.jp>)

※「特集2」では意図的に被災地の状況(写真)を掲載しないようにしています。

■対象期間

2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)の活動を中心に、一部最新(2012年度)の情報を紹介しています。

※ワタミの介護(株)、ワタミタクシヨク(株)については、2月決算のため、2011年度(2011年3月1日～2012年2月29日)の情報としています。

■対象範囲

ワタミ株式会社および国内連結子会社7社を基本に、ワタミグループ全体、あるいはグループ会社の個々の活動についても紹介しています。

本報告書のP.4～11では海外を含むワタミグループ全体について紹介しています。

※P.20、P.21「お客様とともに 外食事業(海外)」と、P.35、P.37、P.42の「海外での取り組み」では、和民国際有限公司、和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、和民餐飲管理(上海)有限公司、台湾和民餐飲股份有限公司、Watami Food Service Singapore Pte. Ltd.を対象範囲としています。また、対象期間は、12月決算のため、2011年度(2011年1月1日～12月31日)としていますが、一部最新(2012年度)の情報を紹介しています。

※P.48～53ではワタミグループが支援する3つの社会貢献団体、公益財団法人 School Aid Japan、NPO法人 Return to Forest Life、NPO法人 みんなの夢をかなえる会を対象としています。

■社名・団体名表記について

本報告書ではグループ会社の社名を略称で記載しています。(2012年8月末現在の社名を使用しています。)

1、ワタミ株式会社および国内連結子会社7社を「ワタミグループ」または「ワタミ」と表記しています。対象が異なる場合は、該当する会社名を記載しています。

2、(有)ワタミファームおよび(有)当麻グリーンライフを「ワタミファーム」と表記しています。

3、ワタミフードサービス(株)を「WFS」、和民国際有限公司を「ワタミインターナショナル」、ワタミの介護(株)を「ワタミの介護」、ワタミタクシヨク(株)を「ワタミタクシヨク」、ワタミ手づくりマーチャンダイジング(株)を「WTMD」、ワタミエコロジー(株)を「ワタミエコロジー」と表記しています。

4、公益財団法人 School Aid Japanを「公益財団法人SAJ」または「SAJ」、NPO法人 Return to Forest Lifeを「NPO法人 RFL」または「RFL」、NPO法人 みんなの夢をかなえる会を「みんなの夢をかなえる会」と表記しています。

■将来の予測・目標について

本報告書には、ワタミグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の予測・目標なども記載しています。しかしながら、これらの予測・目標は、記述した時点で入手可能な情報ないし判断であり、リスクや不確定な要因を含んでいます。

したがって、将来に生じる様々な要因により、活動結果が本報告書に記載した予測・目標と異なる可能性があります。読者の皆様には、以上のことをご理解いただけますようお願いいたします。

発行日：2012年10月

目次

ブランドコミットメント	P. 2
編集方針・目次	P. 3
トップメッセージ	P. 4
ワタミグループに共通する経営の考え方	P. 6
ワタミグループの特徴	P. 8
ワタミグループの事業活動	P. 9
コーポレートガバナンス	P.10
ワタミグループ概要	P.11

特集

1 風力発電事業への参入	P.12
2 東日本大震災復興支援のご報告	P.14
3 ユネスコソーシャル・ビジネスへの取り組み	P.16

6つの事業を通じた活動のご紹介

ワタミグループの活動	P.17
お客様とともに 外食事業(国内/海外)、介護事業、宅食事業、MD事業、農業、環境事業	P.18
株主様とともに	P.32
お取引業者様とともに	P.34
従業員とともに	P.36
地域・社会とともに	P.40
環境とともに	P.44

ワタミグループが支援する3つの社会貢献団体のご紹介

公益財団法人 School Aid Japan	P.48
NPO法人 Return to Forest Life	P.50
NPO法人 みんなの夢をかなえる会	P.52

CSR指標	P.54
編集後記	P.55

バックナンバー

すべての「ふれあい報告書」は、ワタミふれあいホームページ<http://www.watami.co.jp>からPDF形式でダウンロードできます。



1000年に一度の大震災が起きました…「備える」

これからのワタミを見直します。ワタミグループにとって大きな節目の年です。



ワタミ株式会社 取締役会長
渡邊 美樹

ワタミグループ100年企業の為に備えます …1000年に1度の大震災が事実起きたのですから

世界の経済・食糧・環境そして、日本の政治・外交・エネルギー問題、不透明になってきました。何があってもおかしくない状況です。昨年、東日本大震災の後、陸前高田市参与として活動を続けています。今回の大震災を通して、これからのワタミを見直しています。

ひとつは、「備える」

大震災以前より口ぐせにしている関東大震災が3回来て潰れない会社を目指します。そのためには、各事業の強化、財務の強化、何よりも「人」の強化です。ただの居酒屋、ただの介護事業、ただの弁当屋がそれぞれ日本を代表する事業へと育ってきました。外食・介護・宅食・MD・農業・環境…6事業 SAJ、夢、森、…3つの社会貢献団体 学校、病院…大きなグループです なぜそうなったのか どの事業も同じです。～ただただお客様の“ありがとう”が嬉しくて、ただひたすら、お客様の“ありがとう”を集めてきたお客様の笑顔こそ、私たちの最大の喜び、お客様の幸せこそ、私たちの幸せ～ それ以上でも以下でもありませんでした。だからこれからもこの姿勢を貫き通します。今の時代に合わないと言われてもワタミの社員は家族です。同志です。会社は、お店でもホームでも工場でもなく、そこで働いている一人一人が会社そのものなのです。

ここからの活動には、よりよい社会づくりの為に金のお金の入らないビジネス ソーシャルビジネスの育成が加わります。“ありがとう”集め、その核は、ひとつずつ明確です。あとはその質を上げ、幅を広げていくだけです。人の幸せとは～大きな夢を描いて、その夢に向かって一步一步 歩むプロセスの中、“ありがとう”を集め、人として成長することこそ～人の幸せと信じている。だから、ワタミグループの一人一人がその幸せの道を歩むことこそワタミが大きくなり、ワタミが強くなるということなのです。

地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループへ “夢”ではなくなりました。本気で、一人一人が、そうなると思った時その思いはカタチとなります。

渡邊美樹

思いをカタチに “WATAMI”であり続けます。

“WATAMI”は、「地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループになろう」このグループスローガンに基づき、お客様のために活動している企業です。

私たちの活動を通じてもっと多くの笑顔や“ありがとう”に関われるグループ企業になるワタミと関わったすべての方たちに、私たちの存在を喜んでいただくこの思いをカタチにすべく、創業以来変わることなく、“たくさんの笑顔”“たくさんの“ありがとう””と出会うべく挑戦を繰り返しています。

昨年は、東日本大震災後の1年であり、福島原子力発電所事故に端を発したエネルギー問題、消費活動の自粛ムードと、大変厳しい経営環境下での1年となりましたが、多くの場面で“ありがとう”を集めることができ、この難局をワタミらしく乗り越えることが出来ました。

今年度はワタミグループにとって大きな節目となる年です。創業である「和民」1号店オープンから20周年を迎え、ワタミ手づくり厨房開設、農業参入、海外1号店出店(香港)から10年が経ち、ワタミグループの強みの源泉である、独自のビジネスモデル=6次産業モデルがスタートして10周年となります。

“真”の継続こそ力なり。一つのことを真の活動になるには、コツコツとやり続けること、そこには真の徹底が必要で、“真”であること…これがワタミグループの大きなメッセージでもあります。達成すべきことは継続して、習慣になるまで、「非常にシンプルに、よりわかりやすく、やることを明確にして取り組み、徹底」します。

人にやさしい会社、人を大切にする会社であり続けること
 理念に基づき、額に汗する姿を必ず見続けられる会社であり続けること
 お客様、ご入居者様第一主義を貫く会社であり続けること
社会から一つでも多くの“ありがとう”を継続して集め、グループ従業員一丸となって戦えるグループとなるべく理念浸透と人の育成、それを可能にする組織づくり、これを大切に戦ってまいります。皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



ワタミ株式会社 代表取締役社長 兼
ワタミフードサービス株式会社 代表取締役社長
桑原 豊

桑原 豊

ワタミグループは、理念の共有を最重要視し、事業展開しています。

ワタミがその事業に参入してくれてよかったと言っただけのように、「人」と「人」がふれあう、あらゆる場面で、「ありがとう」を集めます。ワタミは、様々な社会貢献型ビジネスをグループで展開し、ステークホルダーの皆様から、感謝と信頼を集め続けることを目指します。

ワタミグループ スローガン

「地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループになろう」

ワタミグループ ミッション

「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」

ワタミグループ 経営の基本目的

「会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者の繁栄、新しき文化の創造、人類社会の発展、人類の幸福への貢献」

グループ社員の仕事の仕方に対する合言葉

「from-0」

「明るくのびのびと仕事をしよう」

ワタミグループ憲章

ワタミグループは、

- 一、地球上で一番たくさんのありがとうを集めるために戦う
- 一、一人一人の社員が人間性の向上のため、夢を持ち、夢を追い、夢を叶える努力をする
- 一、一人一人の社員が、人として美しい生き方を追求する
- 一、「人」が差別化となる、コツコツと売上利益を積み上げる事業にのみ参入する
- 一、お客様の満足をすべてに優先させる
- 一、公明正大な人事を行なう、完全実力主義こそ、人事の要諦とする
- 一、額に汗した利益のみを、利益と認める
- 一、ありがとうの分だけ売上を上げ、知恵の分だけ利益を出す
- 一、すべてのことにおいて、損得で判断をせず善悪で判断する
- 一、ワタミらしいことをすべて肯定し、ワタミらしくないことをすべて否定する
- 一、100年先から見た経営をする、100年先から見た時、問われるのは数字の多寡ではなく、いかに存在し、いかに周りによりよい影響を与えたかだ

※ワタミグループ憲章はワタミグループの経営判断基準を明文化したものです。

グループ社員としての行動基準

ワタミグループは日々の仕事の中で以下の基準を常に意識し、行動し、常にワタミらしくあるべし

- 一、常に謙虚なれ 常に感謝せよ
- 一、他人の喜びや悲しみを共有せよ
- 一、約束を守る、嘘をつかない
- 一、愚痴、陰口を言わない
- 一、笑顔で元氣よく挨拶をする
- 一、出来ないと言わない
- 一、失敗を他人のせいにならない
- 一、大いに発言し、果敢に実行する
- 一、他人の意見を聞く
- 一、恥ずかしいと思うことはしない

グループ社員の仕事に対する心構え

ワタミグループは同じ目的のために同じ心を持つ同志の集合体であるべし

- 一、感激できる感性を持つべし 感激は情熱の源であり、情熱は成功への出発点である
- 一、逆境に悲観せず、順境に楽観せず、常にハングリー精神を持ち挑戦し続けるべし
- 一、勝つまで戦え、限界からあと一歩進め、結果がすべてである
- 一、問題意識を持つべし 問題の発見と解決が次のビジネスチャンスを生む
- 一、継続こそ力なり 日々の努力は継続されることにより信用を生み、信用は力を生む

●事業活動を通じて“ありがとう”を集めます。各事業活動を通じて目指すことを表現した経営目的

外食（国内外食：ワタミフードサービス株式会社、WATAMI USA GUAM、海外外食：和民国際有限公司、和民（中国）有限公司、和民餐飲（深圳）有限公司、和民餐飲管理（上海）有限公司、台灣和民餐飲股份有限公司、Watami Food Service Singapore Pte. Ltd.）
一人でも多くのお客様にあらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること

介護（ワタミの介護株式会社）

一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと

宅食（ワタミタクシヨク株式会社）

一人でも多くの高齢者の方にまごころを込めた食の宅配サービスを通じて、喜びと幸せをお届けすること

MD（ワタミ手づくりマーチャンドライジング株式会社）

バラエティ豊かで、常に変化し続けるメニューを支え、安全・安心な製品を安価で提供すること

農業（有限会社ワタミファーム）

有機農業を発展させ、循環型社会を創造し、人々の幸せに貢献する

環境（ワタミエコロジー株式会社）

ひとつでも多くの施設をより地球への負荷の少ない空間に変えること

●各活動における基本的な考え

社会貢献& ボランティア活動

してあげるのではなく、させていただくことにより学び、感動し、結果として成長させていただくこと

ワタミ環境宣言

美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していくこと

●事業を超えて“ありがとう”を集めます。ワタミグループが支援する社会貢献団体の活動目的

公益財団法人 School Aid Japan

一人でも多くの子どもたちに、人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する

NPO 法人 Return to Forest Life

美しい地球を子どもたちに残すため、一つでも多くの森を再生させることに貢献する

NPO 法人 みんなの夢をかなえる会

一人でも多くの人々に“夢”の素晴らしさを認識してもらい、“夢”をもち、“夢”を追いかけるためのきっかけを提供する

TOPICS

「ワタミ夢ストリート」をオープン

ワタミグループは、2012年7月、本社ビル1階に、「ワタミ理念研究所」を設立し、ワタミグループの理念の歴史の展示場として、皆様との接点となる「ワタミ夢ストリート」をオープンしました。

「ワタミ夢ストリート」は、従業員・株主様・お取引業者様など、ワタミに関わる方々がワタミ理念に触れることで、ワタミが何のために存在しているのか、ワタミが大切にしてきたものは何なのか、ワタミがワタミであり続けるために必要なものは何なのかをより深く知っていただける場、皆様とワタミ理念の接点として開設されました。館内では、ワタミグループが展開する6つの事業と、ワタミグループが積極的に支援する公益財団法人 School Aid Japan、NPO 法人活動などについても、参入した当時の思い(=原点)を展示し、現在に至るまでの活動過程がご覧いただけます。



ワタミ夢ストリートホームページ <http://www.watamirinen.net/>

持続可能な経営へ挑戦し続けます。

「ありがとうを集める活動」を基本に、地球環境を破壊することなく、安全・安心な社会を目指します。

ワタミグループは、「人間は本来持っている誠実さ、思いやり、感謝する心、そのような美しい資質を高めるために生まれてきた。企業活動においても人間性を向上できる環境をつくっていききたい」と考え、創業当時より、人としての人間性、企業としての企業性を重視し、あらゆるステークホルダーの皆様の満足を追求してきました。「地球上で一番たくさん“ありがとう”を集めるグループになろう」というグループスローガンに代表されるワタミの理念に基づき経済的・社会的・環境的ニーズの充足に挑戦し、既存の慣習に捉われることのない革新された社会づくりに挑戦・邁進しています。

今まで、そしてこれからも。ワタミグループの特徴「理念経営」

① 理念に基づき存在対効果を最大に

ワタミの「ありがとうを集める活動」では、社員一人ひとりが集めた「ありがとうの総和」こそが会社の価値をつくると考えています。

お客様から“ありがとう”をいただくことはもちろん、株主様、お取引業者様、従業員、地域・社会、そして地球環境への対応など、あらゆる場面で集める“ありがとう”が最大となるべく事業展開をしていきます。

ワタミと出会ったすべての方たちに、私たちの存在を喜んでいただけるように…。

② 理念へのこだわりから生まれたビジネスモデル

ワタミグループの事業展開は、「創業者の思い」がそのまま現在へとつながっています。外食事業でも介護事業でも農業でも、現在の状態が一朝一夕にできたものではありません。

「ワタミがその事業に参入してくれてよかった…」と言っただけを目標とし、どのような事業(業界)でも、常にあるべき姿を考え、皆が不便を感じていれば、そこにワタミが創意工夫を加え、挑戦を続けている姿が現在のワタミなのです。

③ ワタミ最大の財産は思いを共有した「人」

「企業は人そのもの」であり、私たち一人ひとりが、人生の主人公となる舞台として会社があります。

会社とは、創業者の思い(ミッション)があってこそ、初めて人が集まり、“ありがとう”が集まる。

それが本来ではないかと考えています。

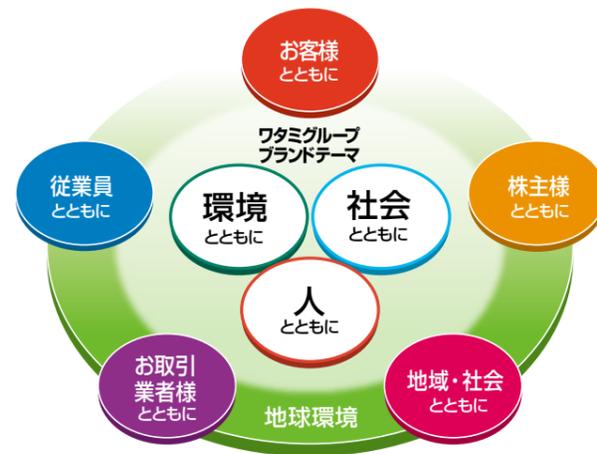
この「創業者の思い」と「それとともに実現しようとする仲間」が集まったのがワタミグループです。

ブランドテーマ

ワタミグループは、環境、社会、そして人に対して、よりやさしい存在になることを目指し、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマとして掲げ、取り組んでいます。

ブランドテーマは、私たちの存在そして行動が、グループが活動するどの領域においても「社会に対してプラスになる(我々の存在が周りに良い影響を与えられるように行動する)」という宣言です。

そして、会社の存在そのものから事業の選び方も、仕事の仕方も、人に良い影響を与える存在であり続け、テーマとして掲げたことを、常に忘れず、少しずつでもやり続けるという意志表示です。



「体の重い亀」

ワタミグループのキャラクターで、グループ報のネーミングにもなっている亀さんです。まじめで一生涯懸命、スピードは出ないけれど、着実に、一步一步、進む亀。できることから少しずつ、目標に向かってコツコツと、決して後戻りしない亀、私たちの姿勢の象徴です。



「事業活動を通じて、社会の課題解決」に貢献 ワタミグループの事業活動

ワタミグループは、外食、介護、宅食、MD、農業、環境の分野で事業を展開しています。ワタミの最大の財産である「人」が差別化要因となる事業で、積極的に展開しています。

ワタミグループでは、一人ひとりが理念に基づく自発的な活動目標を設定し、新たな価値の創出、持続可能な社会の実現に向け、その内容を深めています。企業とは、単なる営利追求組織ではなく、企業市民としての社会的存在であり、社会の一員としての使命(責任)を果たし続けることにより、その存在・継続性が確保されると考えています。

外食

おいしいものがあって、良いサービスがあって、良い雰囲気がある場所に、好きな人と一緒にいる…。こんな場面を提供したいと考え、「安全・安心・手づくり」の商品開発、サービスレベルの向上、快適な空間づくりにこだわっています。

外食産業は人を幸せにする産業だと考え、「お店はお客様だけのもの」を店舗基本理念として、今後も笑顔の溢れる場面一つでも多く提供していきます。



介護

「自分の両親にして欲しいと思うことをすべてさせていただこう」を合言葉に、家庭的で居心地の良い清潔な空間で、お一人おひとりのご自分らしく自由で豊かな時間が流れる暮らしを目指します。

すべての方に「ワタミのホームに親を入居させたいと思う子は親孝行だ」と言っただけの介護施設にすること、親を思う気持ちをカタチにしていくことこそ「ワタミの介護」です。



宅食

「ワタミの宅食」では、「お客様と同じ地域で暮らす“まごころスタッフ”が、毎日手づくりのお弁当を、手渡しを基本に直接お届け」しています。

「今日もありがとう・こちらこそありがとう」…と笑顔で会話が交わされる。「心の温もりが伝わるお弁当を、一人でも多くの高齢者の方にお届けしたい」「さらに、より多くの人々に、この“ありがとう”の輪を広げたい」…。多くの方の日々の幸せや感動に関わるよう事業を展開、より一層社会に貢献できる企業を目指していきます。



MD

「食」を取り巻く環境の変化がますます加速する中で、「食の安全・安心を守る」ことは、「食」に関わる企業として当然の責務であると考えます。ワタミ手づくりマーチャダイジングは、生産から消費までの商品の全工程を設計して「安全・安心」な商品をお届けします。これからも、「食」を通じてお客様からたくさん“ありがとう”を集める活動を広げていきます。



農業

ワタミグループは、「お客様に安全で安心な食材を使った料理を提供したい」と考え、農業に参入しました。安全・安心な農産物の提供と国内の農業における諸問題を改善しようと、全国の生産者と連携し、有機農業を積極的に推進しています。

地域に根ざした有機農業を発展させることで循環型社会を創造し、地域の方々の豊かなライフスタイル創造に少しでも貢献させていただくことを目標に掲げ、事業を展開しています。



環境

お好み焼き宅配の「KEI太」での使い捨て包装容器問題から、ワタミグループの環境対応活動は始まりました。1999年、日本の外食産業で初めてISO14001を本社とグループ全店で取得。また、「ワタミ環境宣言」を発表し、店舗のエネルギー削減システムや廃棄物管理のノウハウを拡大・推進しました。それら環境事業の推進役となったのが、ワタミエコロジーです。環境宣言を実現するため、環境(エコロジー)と経済(エコノミー)の両立(W-ECO)を掲げ、事業で排出される環境負荷(CO₂と廃棄物)の削減に取り組んでいます。



コーポレートガバナンス ガバナンスに対する基本的な考え方

ワタミグループは「地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループになろう」をスローガンとして、ステークホルダーの皆様から感謝と信頼を集め続ける存在になることを目指し、経営上のスピーディな意思決定を図りつつ、経営管理を効果的に行うことに努めています。コーポレートガバナンスの構築において、経営の透明性、企業倫理の確立は重要な要素であると認識し、継続的な改善活動に取り組んでいきます。

グループ意思決定の仕組み

ワタミグループでは、ワタミ(株)の取締役およびグループ各社の社長・経営企画部門責任者などが参加する「グループ経営会議」を月2回開催しています。

会議は、グループの事業効率を高めること、経営資源の管理、適正配分すること、潜在リスクに対応することなど、事業活動の安定性・信頼性を確保したうえでグループの意思決定を行うことを目的としています。

また、ワタミグループでは稟議システムを採用しており、一定基準の案件に関しては関係部門と管理部門の審議を経た上で、業務

の執行を行う体制をとっています。社内規定に基づきリスク管理グループが、そのシステムの管理・運用およびその執行状況を監査しています。

さらに毎月1回、グループ各社の「役員会」において経営状態・サービス提供状態・従業員のマネジメント状況などを多角的に把握するため、KPI(Key Performance Indicator：重要経営指標)の確認、レビューを実施しています。これによって各社の課題の早期発見・解決を図り、意思決定の質・スピードの向上を実現しています。

コンプライアンス 企業倫理とコンプライアンスの徹底

ワタミグループは、企業としての社会的責任を果たしていく上で「理念の浸透」に加え、「企業倫理の確保」と「順法精神の醸成」を最も重要な活動として位置づけ、社内への浸透に徹底的に取り組んでいます。一人ひとりが法令の順守にとどまらず、高い倫理観・使命感を持って実践できるよう全員に「理念集」を配布し、グループ社員が参加する「理念研修会」や新入社員研修にて、コンプライアンスをテーマに講義を行っています。

ワタミヘルプライン

ワタミグループは、グループ内に存在する問題を広く受け付け、積極的に解決し、自己改善・自浄のできる組織になることを目指し、情報収集窓口(ワタミヘルプライン)を、グループ全従業員(パート・アルバイトメンバーを含む)およびお取引業者様に向け開設しています。

ヘルプラインは、2006年4月から施行された公益通報者保護法にも準拠し、社内独立組織のヘルプラインプロジェクトに直結連絡する窓口と外部委託機関である(株)インテグレックス経由で連絡する窓口を設置、早期発見・未然防止の体制を強化するとともに、制度の透明性・利便性の向上、通報者の保護の徹底に努めています。今後も現状の運営を継続していきます。

ヘルプライン受付アドレス
 ※下記のEメールアドレスへは、携帯電話からのメールでも受信可能です。

A ワタミヘルプラインプロジェクト w-helpline@watami.net

B (株)インテグレックス(外部委託会社) w-helpline@integrex.jp
 インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>



ヘルプラインパンフレット

リスクマネジメント グループリスク管理体制の維持

内部統制の構築を通じて、コンプライアンス・リスクマネジメント体制を推進し、内部監査によりグループ内に潜在しているリスクを把握、グループ経営会議・各社への提言を行い、是正・改善を図り、企業としての健全性(誠実さ・透明性)の確保に努めています。

内部統制の推進(金融商品取引法:J-SOX対応)

ワタミグループは、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の評価・報告制度(J-SOX)への対応を図り、グループ会社を含めた内部統制の体制構築、社内規定や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

2011年度は、事業拡大に伴い、海外事業も対象範囲に追加しました。

BCP(事業継続計画)の策定・運用

ワタミグループは、大規模災害発生時の事業継続や復旧の必要が生じた場合を想定したBCPの策定・運用に取り組んでいます。

2011年度は、東日本大震災を受け、安否確認システムの運用を改善し、会社からの指示を待つことなく、従業員が自ら安否情報を登録することとし、確認の迅速化を図りました。

ワタミグループ概要 (2012年3月期)

■会社概要

社名：ワタミ株式会社
 本社所在地：東京都大田区羽田一丁目1番3号(〒144-0043)
 創業：昭和59年4月
 設立：昭和61年5月
 売上高：140,197百万円(連結)
 経常利益：7,808百万円(連結)
 資本金：4,410百万円
 社員数：グループ計5,730名

■事業内容

国内外食事業(ワタミフードサービス株式会社、WATAMI USA GUAM)

飲食店の経営およびフランチャイズ事業の展開

飲食店(居食屋「和民」、炭火焼だいにんぐ「わたみん家」など)や、日本および米国GUAMにおける米国レストランチェーン「T.G.I.Friday's」などの経営ならびに、海外食事業におけるフランチャイズ事業の展開。636店舗(GUAMを含む)を展開。

海外外食事業(和民国際有限公司、和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、和民餐飲管理(上海)有限公司、台灣和民餐飲股份有限公司、Watami Food Service Singapore Pte. Ltd.)

飲食店の経営およびフランチャイズ事業の展開

海外外食事業における展開戦略の立案と実行、海外現地法人の管理、ビジネスパートナーの開拓。海外において、居食屋「和民」、日本料理「和亭」、計59店舗を展開。

介護事業(ワタミの介護株式会社)

施設介護および通所介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援事業

介護付有料老人ホーム「レストヴィラ」「トレクオーレ」の展開、住宅型有料老人ホーム「レヴィータ岸和田」の運営、通所介護(デイサービス)、訪問介護(ホームヘルプサービス)、訪問看護、居宅介護支援事業。計79棟の介護施設を展開。

宅食事業(ワタミタクシヨク株式会社)

弁当・おかずと夕食材料の販売・宅配

お弁当・お惣菜と夕食材料の販売・宅配。258カ所の営業拠点を展開し、調理済み弁当配食数は215千食。

MD事業(ワタミ手づくりマーチャンダイジング株式会社)

グループ内外の商品の製造と供給、給食の提供

仕入れから製造、物流までグループの食にまつわるすべてを運営。集中仕込みセンター「ワタミ手づくり厨房」を全国10カ所で展開。学校・保育園の給食を受託。

農業(有限会社ワタミファーム・有限会社当麻グリーンライフ)

畑作事業、鶏卵事業、乳製品加工事業、畜産事業、育苗事業

全国8カ所、計503.4haの農場(牧場を含む)を運営し、畑作事業、鶏卵事業、乳製品加工事業、畜産事業、育苗事業を展開。

環境事業(ワタミエコロジー株式会社)

環境対応型メンテナンス事業、環境改善事業

グループ内外の施設のメンテナンス業務の委託、廃棄物処理管理事業
 ※ワタミエコロジーは、2012年4月に事業整理を行い、事業内容を「環境事業」に特化し、現在は循環サービス事業と再生可能エネルギー事業に取り組んでいます。

■ワタミグループの事業施設展開状況

地域名	事業別				
	外食(店舗数)	介護(施設数)	宅食(営業拠点数)	MD(センター数)	農業(農場数と面積)
国	13				3(計450.7ha)
内	12		4		
関東	404	72	94	5	3(計35.7ha)
甲信越	10		6		
中京・東海	39	1	23		
関西	96	4	33	2	1(9.6ha)
中国・四国	27	2	17		
九州	33		81	3	1(7.4ha)

■事業別売上高/営業利益 (単位:百万円)

	売上高	営業利益
外食(国内)(※1)	76,194	2,960
外食(海外)(※2)	7,618	169
介護	28,489	4,417
宅食	26,232	2,143
農業(※3)	1,060	▲75
環境	3,632	19

(※1)WFS+WATAMI USA GUAM
 (※2)和民(中国)有限公司+和民餐飲(深圳)有限公司+和民餐飲管理(上海)有限公司+台灣和民餐飲股份有限公司+Watami Food Service Singapore Pte. Ltd.
 (※3)(有)ワタミファーム+(有)当麻グリーンライフ
 (※4)ワタミ(株)の経費は、売上に応じて投分、WTMDの経費は、事業別経費を算出し、配賦しています。

■主要な経営指標などの推移



ワタミタクシヨクは2008年7月にグループ会社となったため、2008年度からのグラフとなっています。

地域名	事業別				
	外食(店舗数)	介護(施設数)	宅食(営業拠点数)	MD(センター数)	農業(農場数と面積)
海外	27			1	
香港	3				
深圳	3				
上海	6				
広州	3				
台湾	14				
シンガポール	4				
マレーシア	2				
グアム	2				

風力発電事業への参入

ワタミの夢風車「風民(ふうみん)」が稼働しました。

ワタミグループは、グループのCO₂削減、日本で停滞している再生可能エネルギーの普及促進に寄与することを目的として、風力発電事業に参入しました。秋田県にかほ市の市民風力発電プロジェクトにワタミグループより資金を拠出して風車建設を支援し、2012年3月から発電を開始しました。建設された風車は、ワタミの夢風車「風民」と名付けられました。



名前の由来

美しい地球を未来の子どもたちに残したいとの思いから、この事業に参加し、電力と環境価値を購入するワタミグループの社員公募により、ワタミの夢風車「風民(ふうみん)」と命名されました。この名前には、「人々の思いをのせて未来の子どもたちへ届けたい」という意味が込められています。

事業概要

「未来の子どもたちのため、原子力発電や化石燃料に頼らない社会を創りたい、そのためにひとつでも多くの再生可能エネルギーを普及させたい」という理念のもと、一般社団法人「このうら市民風力発電」は設立されました。

このプロジェクト理念に共鳴し、市民風力発電とワタミグループが協力して事業全体の推進の役割を担いました。

このうら市民風力発電は、にかほ市、にかほ市民の皆様、そして参加企業の協力を得て、発電を開始しました。

このプロジェクトにより、風車をはじめとした再生可能エネルギーの環が日本中に広がっていくことを、心より願っています。

- 運転開始日：2012年3月1日
 - 事業参加：市民風車の会あきた、北海道グリーンファンド、株式会社市民風力発電（基金、事業計画・開発、事業運営）/ワタミ株式会社（資金融資、電力・環境価値購入）/昭和リース株式会社（資金融資）
 - 建設協力：東光電気工事株式会社/株式会社ユアテック/株式会社日立製作所/富士重工業株式会社/若築建設株式会社/東和電気工事株式会社
- ※敬称は省略させていただきます。

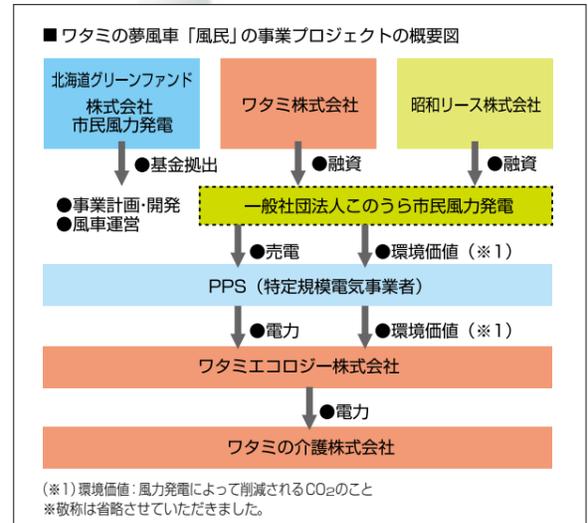
発電された電力の活用

ワタミの夢風車「風民」により発電された電力は、主にワタミの介護施設で使用されています。また、2012年6月30日に開催された株主総会およびワタミ感謝祭で使用された電気（約5,000kWh）、同年7月7日に開催された関西経営説明会で使用された電気（約1,000kWh）、本ふれあい報告書の印刷のために使用された電気（約1,000kWh）も、「風民」から生まれたグリーン電力を使用しました。

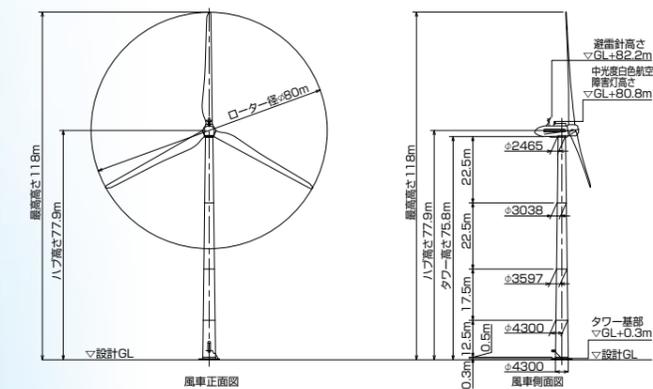
「風民」の事業プロジェクト

ワタミグループは、ワタミ（株）が融資する一般社団法人このうら市民風力発電プロジェクトの風車（ワタミの夢風車「風民」）が発電するグリーン電力（ワタミグループの電力使用量の約3%）と環境価値（ワタミグループのCO₂排出量の約2%）を、PPS（特定規模電気事業者）を通して購入しています。

このプロジェクトの最大の特徴は、環境価値をすべてワタミグループで購入することにあり、これは日本では初めての取り組みです。

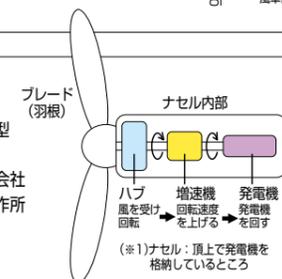


風車の仕様



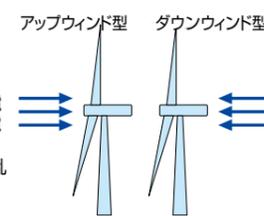
風車の概要

- 全 長：約120m
- 重 量：約250t
- 型 式：ダウンウィンド型
- 発電出力：2000kW
- メーカー：富士重工業株式会社 株式会社日立製作所



風力発電とは？

- ① 発電原理：強い風を受けてブレード(羽根)が回転し、その力で発電機を回して電気をつくります。
- ② 方式：アップウィンド型：正面から風を受けて発電
ダウンウィンド型：背面から風を受けて発電
- ③ ダウンウィンド型の特徴：背面から風を受けるため台風などの強風や乱流に対して、ナセルをスムーズに回転させて対応することができます。



風車完成までの過程



再生可能エネルギー事業による地域への貢献

火力発電や原子力エネルギーのような大規模集中型の発電に対して、再生可能エネルギーは小規模分散、地域密着型のエネルギーと言われています。1号機の稼働は、秋田県にかほ市の皆様のご協力により実現しました。この1号機を通じた地域とのつながりを保てるよう、地域物産の活用や社員旅行の実施などを検討しています。

今後の再生可能エネルギー事業の展開

ワタミグループは、2012年7月から施工された再生可能エネルギー全量固定価格買取制度を前提として、2020年にグループで使用するすべての電力量と同程度の再生可能エネルギーの導入を目指しています。

2012年度には、1号機同様、秋田県内で同規模の発電容量（約2,000kW）の風車2基の建設に参加する予定です。2012年度末にこの2基が竣工することによって、グループで使用する電力量の約9%程度の発電能力となる予定です。これらの風力発電と並行して、太陽光発電、小水力発電、バイオマス発電などの導入可能性も検討していきます。

今後も、地球で事業活動を営む企業の責任として、環境宣言「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」の実現に向けて、一層の地球環境負荷低減を推進していきます。

東日本大震災復興支援のご報告

被災地への思いを 風化させない、忘れない。



2011年3月11日に発生した東日本大震災により、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

ワタミグループでは、被災地への思い、復興支援を決して一時的なものにせず、継続的に行うため、「ワタミから日本を元気に」をスローガンに行動を開始いたしました。

活動は公益財団法人 School Aid Japan（代表理事：渡邊美樹）を全面支援する方針を進めており、震災発生直後より被災地への救援物資の輸送を皮切りに、様々な取り組みを行いました。

※SAJは本来、開発途上国の子どもたちの学校に寄与する公益財団法人ですが、今回の震災に限り、内閣府から許可を取得し、支援活動を展開しました。

SAJに対する支援金の寄附

ワタミグループ国内外食全店舗では、2011年5月1日から11月30日にかけて、ご宴会コース全メニュー（飲み放題料金を含む）の売上の1%をSAJの災害支援活動に対し、支援金として寄附させていただき「復興支援キャンペーン」を実施しました。キャンペーン期間を通し、累計で58,250,078円をSAJに寄附させていただきました。

また、ワタミグループは、従業員から寄附を募る、外食店舗、介護施設に募金箱を設置するなど、社内外に対し、災害募金のお願いを広く呼びかけました。

2012年4月末までに、「復興支援キャンペーン」での寄附も含め、総額で98,569,147円をワタミグループからSAJへ寄附しました。



外食店舗に設置したキャンペーンポスター

SAJと協力した、おせちのお届け

ワタミ（株）とSAJは、渡邊美樹が参与を務める陸前高田市の仮設住宅にお住まいの方より、「お正月のおせち料理を準備できないので、おせちを提供して欲しい」とのご要望を受けました。こうしたご要望に対し、ワタミ（株）とSAJは協力して、ワタミタクシヨクが販売するおせち5,450個を、陸前高田市および住田町の仮設住宅にお住まいの方を対象にお届けしました。



お届けしたおせち「一段重箱小づち」

ワタミタクシヨクによる「陸前高田受付センター」の開設

ワタミタクシヨクは、2012年2月、長崎県諫早市に続き2拠点目となる受付センターを、陸前高田市に開設しました。「陸前高田受付センター」では、東日本エリアからの宅配弁当注文などのお問い合わせに対応しています。

新受付センターの開設は、被災地の雇用創出も目的の一つとしています。



■ワタミグループがこれまでにやってきた支援活動

年	月	支援活動の内容
2011	3	SAJの復興支援活動を全面支援するため、SAJに対する支援金の寄附を始める。
		SAJからの要請により、ワタミの介護で被災地のご高齢者様を受け入れる。 (福島原発から50kmの運営不能になった特別養護老人ホームのご入居者様を受け入れさせていただきました。福島県の介護施設の運営が再開されるまで、ワタミの介護のホームで約1か月お過ごしください、4月にお戻りになられました。)
		WFSのダイレクトフランチャイズオーナーで結成されている「豊樹会」が、被災地で炊き出しなど、支援活動を開始する。
	4	国内外食店舗にて、日本酒「南部美人」(岩手県)と「一の蔵」(宮城県)の販売を強化するための取り組みを行う。
		ワタミの介護の従業員がボランティア活動に参加する。 (一般社団法人全国特定施設事業社協議会より、被災地における特定施設の業務全般の支援や、避難所生活をされている要介護高齢者支援などを目的とした「震災支援スタッフ募集」の案内をいただきました。その呼びかけに呼応し、従業員が被災地に赴き、様々なお手伝いをさせていただきました。)
5	国内外食店舗にて、復興支援キャンペーンを開始する。	
2012	6	SAJの支援活動に協力し、ワタミタクシヨクが炊き出しを行う。 (埼玉県加須市に避難されている福島県双葉町の方々に「野菜たっぷり皿うどん」を提供させていただきました。)
	7	SAJによる陸前高田市復興支援ボランティアへ参加。10月まで継続して参加する。
	12	ワタミ（株）がSAJと協力し、陸前高田市の方におせちをお届けする。
2	雇用創出を目的の一つとし、ワタミタクシヨクが陸前高田市に受付センターを開設する。	

SAJが行った活動のご紹介

被災地への救援物資のお届け

SAJは、宮城県副知事と支援活動方法について相談の上、2011年3月15日から2011年10月28日まで、計33便にわたり、救援物資を被災地へお届けしました。飲料水や食料、生活必需品など、県が必要と判断する物資を、一便一便必要な場所へお届けしました。

陸前高田市復興支援ボランティアの派遣

SAJは、2011年7月より、SAJの活動趣旨に賛同していただいている旅行代理店様と連携し、ボランティアを募集、貸切バスで陸前高田市へボランティアの派遣を行いました。2011年10月までに計72回、約2,500名のボランティアを現地に派遣しました。
※瓦礫撤去などが8割がた終了し、ボランティアによる復興支援活動の終息も近いと実感したため、瓦礫撤去などのボランティア募集・派遣は、2011年10月2日をもって一時停止しましたが、現地からの要請があった場合は、活動の有効期間内（平成26年12月31日まで）の範囲で支援活動を継続します。

ワタミグループは、社員からボランティアを募集し、団体にこの復興支援ボランティアに参加しました。活動が一時停止となった2011年10月までに計347名が参加し、重機が入ることの困難な場所の瓦礫を撤去したり、手入れを行うことができずに荒れてしまっている土地の草刈りなどを行いました。



陸前高田市復興街づくりイベントの後援

2011年8月27日、28日の2日間に渡り、渡邊美樹が実行委員長を務める「陸前高田市復興街づくりイベント～街おこし・夢おこし～」が開催されました。当日は、震災前の陸前高田市商店街の町並みを再現、地元のお店や全国のグルメ店が来店され、約17,000人の方にご来場いただきました。

SAJは、このイベントの後援団体として、企画運営および会場などの設営を支援する活動を行いました。



陸前高田市復興街づくりイベント特別記念講演の開催

SAJは、2011年9月19日、陸前高田市復興街づくりイベント特別記念講演として、「渡邊美樹と考える みんなの夢シンポジウム in 三陸気仙地区」を開催しました。当日は、SAJ代表理事の渡邊美樹から、「みんなで街おこし・夢おこし」をテーマに、27年間の経営ノウハウを地元経営者の方々にお伝えすべく、夢をかかなる、仕事で成功するポイントを講演させていただきました。

「経営勉強会」の開催

SAJは、地元企業の復興支援を目的とし、三陸地区（陸前高田市、大船渡市、住田町）の事業主、商店主、住民の皆さま、約60名を対象とした「経営勉強会」を、2011年11月から2012年3月まで計6回にわたり開催しました。

経営勉強会では、ワタミグループ創業者でもある渡邊美樹から参加者の方々に、ビジョン、経営戦略、マーケティング、資金調達など、経営の要諦について講義させていただきました。



経営勉強会の様子

- 1回目：～理念～…経営の技術の本質として、「理念（ミッション）」「ビジョン」「戦略」についてお話し、経営者として大切な考え方について講義しました。
- 2回目：～心構え～…株式会社原田教育研究所 代表取締役社長の原田隆史様を講師に迎え、「仕事と考える、人生と思え！」をテーマに、仕事に対する心構えについて講義させていただきました。
- 3回目：～ビジョンと戦略～…ビジネスモデル、事業戦略、戦略グループなどのキーワードをもとに、売上や利益を生み出す仕組みや、どのように他と差別化を図るのかについて講義しました。
- 4回目：～組織戦略/人材戦略～…「マズローの5段階の法則」をベースに、「社員を幸せにする5つの基本」についての講義を行い、渡邊美樹が考える組織論について紹介しました。
- 5回目：～ファイナンス～…さわみ投資株式会社 代表取締役会長の澤上篤人様を講師に迎え、時代を先読みしたビジネスモデルをつくること、長期投資を行うことの重要性について講義させていただきました。
- 6回目：～まとめ～…参加者の皆様に事業報告書を作成していただきました。

「ツール・ド・三陸 サイクリング チャレンジ 2012 in りくぜんたかた」への支援

2012年9月、「ツール・ド・三陸 サイクリング チャレンジ 2012 in りくぜんたかた」が開催されました。このイベントは、東日本大震災によって甚大な被害を被った三陸エリアの復興街づくりを、環境にやさしい自転車イベントを通して、地域振興と広域観光の推進を1回で終わらせるのではなく、継続的にサポートしていくことを目的として実施されました。

SAJは、このイベントに協賛企業として参加させていただきました。

ユヌス・ソーシャル・ビジネスへの取り組み

○ユヌス・ソーシャル・ビジネスを推進する 合併会社を設立します

ワタミ(株)は、2011年12月、グラミン銀行創始者で2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏が代表を務めるユヌス・センター(所在地:バングラデシュ人民共和国)と、ユヌス・ソーシャル・ビジネスを推進する現地法人を共同出資(合併)で設立することについて、基本合意を行いました。契約締結の際には、九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターのご協力をいただきました。

九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター ホームページ…
<http://sbrc.kyushu-u.ac.jp/>

合併会社の概要

- 会社名: WATAMI Social Business Ltd.(仮称)
- 所在地: バングラデシュ人民共和国 ダッカ
- 主たる事業: ①人材育成 ②飲食チェーン経営及びフランチャイズ事業
- 資本金: 1万USドル
- 出資比率: ワタミ株式会社…90% ユヌス・センター…10%

合併会社が目指すこと

合併会社の設立の目的は、バングラデシュにおける社会的課題(貧困、衛生、教育、食育など)を「食」に関する事業を通じて解決することです。

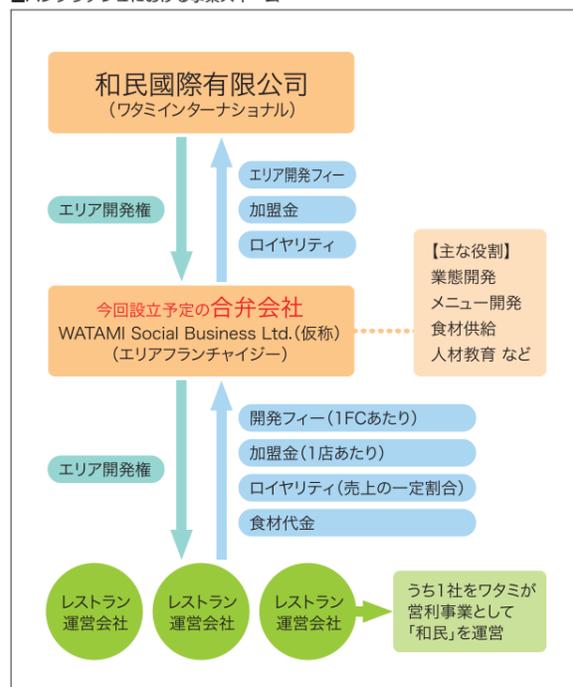
バングラデシュは経済成長が見込まれる一方で、貧困・衛生・教育などの社会的課題がなお多く存在しています。

ワタミグループが海外で展開している外食業態をバングラデシュに出店するだけでなく、ワタミグループがこれまで培ってきた外食事業のノウハウ(業態開発、フランチャイズ運営など)を活用し、低~中間所得層でも利用可能な業態を開発・展開していきます。同時に、バングラデシュでの雇用を創出することで、人々の生活改善をサポートするとともに、同国の外食産業の発展を担う人材育成にも取り組みたいと考えています。

2012年に合併会社の設立を予定しており、2014年を目処に1号店開業を目指します。



■バングラデシュにおける事業スキーム



○ユヌス・ソーシャル・ビジネス・ファンドへの出資について

収益力のあるユヌス・ソーシャル・ビジネスを日本で育てるため、ユヌス・ソーシャル・ビジネスを行う企業や個人に出資することを目的として立ち上げを計画されているファンドに対し、ワタミ(株)は1億円を出資することを予定しています。

このユヌス・ソーシャル・ビジネス・ファンドの出資先に関しては、ユヌス氏が提唱する「ユヌス・ソーシャル・ビジネスの7原則」を満たしているかどうかを重点に選定を行います。

<ユヌス・ソーシャル・ビジネスの7原則>

- 事業の目的が、人々や社会を脅かす貧困や社会的課題(教育、健康、環境、など)を解決することであり、利益を最大化することでは無いこと
- 財政的および経済的に自立して持続性があること
- 出資者は出資分のみを回収し、出資者に投資額以上の配当は行われないこと
- 出資者が出資分を回収した後、会社の利益は当該事業の拡大や投資のために使用されること
- 環境に配慮すること
- 従業員はマーケットの水準の賃金とより良い労働条件を得ること
- 楽しみながら取り組むこと

ワタミの活動

事業を通じて、事業を超えて… “ありがとう”を集めます。

ワタミグループは、働く一人ひとりが理念にもとづく自発的な活動目標を設定し、周りの人の幸せに関わるべく、新たな価値の創出・持続可能な社会の実現に向け、その内容を深めています。

事業を通じて 6つの事業を通じた活動のご紹介



事業を超えて ワタミグループが支援する3つの社会貢献団体のご紹介



P18以降では、ワタミグループが行う6つの事業と支援している3つの社会貢献団体についてご紹介しています。6つの事業については、ステークホルダーごとに分けてご紹介しています。



業態のブラッシュアップとさらなる拡大

2011年度、和民においては、これまでのポジショニングを明確にした上で、業態のブラッシュアップを実施。65店舗の大改装と、新商圏となる山形、富山、沖縄への進出を果たしました。2012年度は、和民の改装にさらに拍車をかけるとともに、わたみん家においては、差別化の大きな要素となる「炭火烧」という店舗技術をより強化して、専門性が高く、高品質・低価格な業態にしていきます。2012年度は、わたみん家でも20店舗の大改装を計画しています。

新業態においては、それぞれの業態が徐々にお客様に支持をいただけるよう成長した1年でした。2012年度はこれらをさらに拡大していきたいと思っています。また、「旨い屋」の新店も、2012年度の大きな戦略のうちの1つです。景気低迷、経済の不透明さを見たときに、より低価格な、ただし高品質な業態が必要だろうと考え、「和っしょい²」をブラッシュアップした「旨い屋」を出店しました。

これらを通し、さらにワタミらしい人材を育成し、1店1店、ピカピカに磨き上げ、厳しいと言われる居酒屋業界の中でも自分たちのポジショニングを明確にし、戦っていきたくと思っています。



ワタミ株式会社 代表取締役社長兼
ワタミフードサービス株式会社
代表取締役社長
桑原 豊

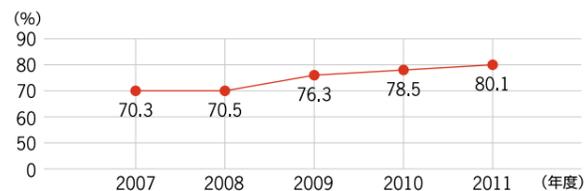
お客様満足度の向上を目指して

WFSは、お客様満足度を追求するために、アンケートハガキやホットライン(メール)、アンケートフォーム(WEBサイト内に設置)を用意し、ご来店されたお客様からご意見・ご感想をいただいています。

アンケートの評価は4段階となっており、「最も高い評価を80%・最も低い評価を0件」を目標にしています。2011年度は、128,795件のご意見をいただき、全体に対して最も高い評価は80.1%となりました。

いただいたご意見・ご感想は、毎週「業務改革会議」にて確認し、ご満足いただけなかったアンケートなどについては、1件ずつその原因と対策について確認し、再発防止に努めています。

■お客様満足度の推移



「T.G.I. Friday's」独自の取り組み

Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's」では、通常のお客様アンケートとは別に、どのサービスがお客様の総合満足度に影響しているか、インターネットを通じての調査(ゲストエクスペリエンスモニター調査(GEM))を行い、より良い店舗づくりのために活用しています。



Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's」イクスピアリ店

お客様の声に応える商品開発

WFSは、アンケートにていただいたお客様のご要望をもとに、メニューラインナップや調理法、食感などにこだわる他、ワタミファームで採れた有機野菜を積極的に導入するなど、「安全・安心・手づくり」にこだわった商品開発を行っています。

2011年度は旬の野菜をふんだんに取り入れ、ワタミファームなどで収穫した旬の有機野菜からつくったドレッシングとともに提供する「自家製ドレッシングで食べる17品目のサラダシリーズ」を、居食屋「和民」、JAPANESE DINING「和民」、語らい処「坐・和民」、居食屋「和み亭」の特撰メニューに新たに導入しており、お客様にご好評をいただいています。



自家製ドレッシングで食べる17品目のサラダ

原産地の公開

WFSは、「ワタミ原産地表示サイト(携帯サイト)」を設け、居食屋「和民」、JAPANESE DINING「和民」、語らい処「坐・和民」、居食屋「和み亭」、炭火烧だいにんぐ「わたみん家」の4業態において、「季節の特撰料理」で使用している主要食材の産地情報を公開しています。また、上記4業態においては、特定原材料(*)の使用の有無について、最新の情報が掲載された一覧表を各外食店舗ごとに保管しています。

*特定原材料・・・アレルギー発生頻度が高く、その症状が重篤であるとされる「小麦・乳・卵・そば・落花生」の5品目。

安心してご利用いただける空間づくり

WFSは、2000年より「点字メニュー」、2002年より「英字メニュー」を設置しています。現在「点字メニュー」は、居食屋「和民」、JAPANESE DINING「和民」、語らい処「坐・和民」、居食屋「和み亭」の全店舗、「英字メニュー」は、「和民」「坐・和民」「和み亭」炭火烧だいにんぐ「わたみん家」、Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's」の全店舗に用意しています。

また、分煙化にも取り組んでおり、特に、ごちそう厨房「饗の屋」では全席禁煙席とし、喫煙スペースを別に設けることで、お子さま連れのお客様にも安心してご利用いただける工夫を行っています。

外食店舗運営レベルの維持向上

WFSは、安定した外食店舗運営レベルを確保するため、内部監査をはじめ、本部社員(SIP)・お取引業者様(ミステリーカスタマー)など様々な視点からチェックを行い、外食店舗運営のスタンダードを再確認しています。

- 監査(内部監査) 626回実施
 - SIP(スタンダード・インポート・パトロール) 548回実施
 - ミステリーカスタマー 416回実施
- WFSの本部社員が、全店舗、抜き打ちでチェックを行い、管理面の是正・改善が行われる体制をとっています。
- 外食店舗運営のスタンダードの再確認、問題の共有化を目的として、本部社員が、全店舗のチェックを行っています。(ただし、T.G.I. Friday'sを除く。)
- お取引業者様の方に、無作為に「お客様としてご来店」いただき、56項目の評価をしていただいています。外部からみた目線によりよい店舗づくりに努めています。

JAPANESE DINING「和民」への転換

居食屋「和民」は、2012年、1992年の初出店から20周年目を迎えました。20周年を迎えるにあたり、WFSでは、2011年度より、リブランディング活動の一環として、古くなった居食屋「和民」を順次、JAPANESE DINING「和民」へ転換しています。新しいデザインでの内外装に加え、業態ロゴ、ユニフォーム、食器なども一新し、「和民」業態のリニューアルを図っています。

2011年度は、60店舗の転換を完了しました。2012年度は85店舗の転換を行い、2012年度中に居食屋「和民」全店舗の転換を完了させる予定です。



w a - t a - m i
JAPANESE DINING



新業態の出店 JAPANESE BARU「旨い屋」

WFSは、2012年7月、低価格業態の居酒屋として、JAPANESE BARU「旨い屋」御茶ノ水駅前店を新たに開業しました。お客様の低価格志向に対応すること、また、仰天酒場「和っしょい²」からの転換として、商品・内装をブラッシュアップし、低価格でありながら付加価値の高い商品を提供しています。

「旨い屋」では、8割のメニューを263円(税込)と305円(税込)に設定し、お客様にお値打ち感をしっかりと感じていただける価格にしています。

主力業態である居食屋「和民」や炭火烧だいにんぐ「わたみん家」に次ぐ第3の柱として、5年間で約100店舗規模の出店を目指しています。



JAPANESE BARU「旨い屋」の
グランドメニューブック

より多くの“ありがとう”のために

WFSは、2011年度、17店舗の新規出店、65店舗の改装を行うと同時に、山形県、富山県、沖縄県への初出店を果たしました。2012年7月末現在、鳥取県、島根県への出店も完了しており、未出店地域となっている秋田県、福井県、高知県へも2012年度中に開業する予定です。

また、2012年度は、炭火烧だいにんぐ「わたみん家」を中心に25店舗の新規出店を計画しています。さらに、居食屋「和民」だけでなく、他業態においても2012年度より転換・リニューアルを行っていきます。

BARU&DINING「GOHAN」新宿三丁目店



japanese dining「ゴハン」は、BARU & DINING「GOHAN」へ転換していきます。

ごちそう厨房「饗の屋」府中若松店



居食屋「和み亭」は、ごちそう厨房「饗の屋」へ転換していきます。

現地のお客様に確実に満足いただくために

いつもワタミグループを応援いただき、誠にありがとうございます。

2011年はマレーシアへ出店し、海外合計で59店舗となりました。展開地域は香港、台湾、深圳、広州、上海、シンガポール、マレーシアと広がっています。2011年前半は震災・原発事故以後、魚介類中心に日本食消費の減少が見られましたが、当社は特定食材に偏らないバラエティ感あるメニューにより、影響をごく軽微にとどめることができました。

バラエティ、オリジナリティ、クオリティが当社のキーワードです。豊富なメニュー、本物の日本の味の再現、理念教育によるサービスマインドの徹底は、現地のお客様に確実に支持をいただいております。結果として、2011年12月には全店舗合計で71万人のお客様にご来店をいただくことができました。

2012年は過去最大の21店舗出店、新地域フィリピン出店、新業態「和亭」[kitchen J] の確立、現地幹部教育、出店を支えるサポート体制の整備が最重要テーマです。2012年12月には合計80店舗、月間来店客数は101万人となる見込です。一人ひとりのお客様に確実に満足をいただくよう、引き続き現地スタッフ教育に余念なく活動し、すべての店舗で元気な営業を行ってまいります。



和民国際有限公司
代表取締役社長
栗原 聡

お客様満足度の向上を目指して

ワタミインターナショナルは、積極的にお客様にご意見をいただくため、アンケート調査など様々なご意見を頂戴する機会を設けています。

国内と同様、アンケートの評価は4段階となっており、「最も高い評価を80%・最も低い評価を0件」を目標にしています。いただいたご意見・ご感想は、毎週「業務改革会議」にて確認し、ご満足いただけなかったアンケートなどについては、1件ずつその原因と対策について確認し、再発防止に努めています。

頂戴したご意見をもとに、お客様の声を反映した商品・サービスの改善に努め、「もうひとつの家庭の食卓」という基本コンセプトにこだわりながら、現地のニーズに対応した商品・メニュー開発に取り組んでいます。



店舗運営レベルの維持向上

ワタミインターナショナルは、国内と同様、外部からみた視点でのより良いお店づくりのため、ミステリーカスタマーを実施しています。お取引業者様に「お客様としてご来店」いただき、50項目において評価をいただいております。2012年度は、計524回実施しました。

お客様にご満足いただける商品を目指して

ワタミインターナショナルは、日本の食スタイルを楽しむ、リーズナブルに味わっていただくことを目指し、日本の「和民」をベースに、現地食材を可能な限り使用して、「手づくり、本物性（日本式）」を表現した商品開発に力を入れています。日本の最新商品を導入し、メニューの新鮮さを強化するとともに、串焼、寿司などの人気商品においてはブラッシュアップを行い、よりお客様にご満足いただけるよう取り組んでいます。



すき焼き鍋 ひれカツ卵とじ

新デザインでの店舗づくり

ワタミインターナショナルは、2011年度より、新規性、効率性、従業員の働きやすさを満たす、新しいデザインでの居食屋「和民」の店舗づくりに取り組んでいます。外観においては、「Japanese Casual Restaurant」を前面に打ち出し、イメージの刷新を狙っています。内装においては、照度や壁面に工夫し、「ハレ」「大人」の雰囲気こだわった空間をお客様に提供できるよう、改善に取り組んでいます。



**新業態の出店
Japanese Restaurant & Cafe[kitchen J]**

ワタミインターナショナルは、2012年1月に、新業態となる Japanese Restaurant & Cafe[kitchen J] を香港に出店しました。日本の和食を中心とした居食屋「和民」、日本料理「和亭」とは別に、日本で発展した美味しい洋食を海外のお客様に提供する業態として開発しました。友人、家族で気軽に日本の洋食を楽しんでいただけるよう、パスタ、ピザ、オムライス、ドリアと、様々なラインナップを用意しています。味・品質は専門店レベルを追求し、パスタは茹で上げ、ピザは生地をその場で広げて焼いていきます。内装も華やかに、色彩豊かに明るい雰囲気を出しています。

2012年8月末現在、2店舗で実験中ですが、香港で30店舗を出店できるよう創り込んでいきます。



より多くの“ありがとう”のために

ワタミインターナショナルは、「現地の経済の発展に貢献すること」「その地域のお客様に楽しんでいただけるお店づくり」を基本的な考えとし、出店地域を拡大すべく、現地提携企業の開拓を進めています。

2011年度は、香港、上海などで過去最多となる20店舗を新たに開店し、海外店舗数は累計で59店舗となりました。マレーシアでは、海外初となる現地企業によるフランチャイズ店を出店しました。また、フィリピンの Creative Resto Concept, Inc社と新たに居食屋「和民」のフランチャイズ開発契約を締結しました。

2012年度は、過去最多の21店舗の出店を計画しており、2012年秋にはフィリピン1号店の出店を予定しています。



TOPICS

ワタミグループ外食店舗（国内外含め）700店舗の出店を達成！

ワタミグループは、2012年8月、JAPANESE DINING「和民」那覇新都心店の出店をもって、国内外含め、700店舗を達成することができました。これをひとつの区切りとして、お客様に感謝を伝えることを目的とした「700店舗達成記念キャンペーン」を、2012年3月から4月にかけて国内外すべての外食店舗にて実施しました。本キャンペーンは、国内外で連携した初めての大型キャンペーンとなりました。



キャンペーンポスター



JAPANESE DINING「和民」那覇新都心店



ワタミ株式会社 取締役 兼
ワタミの介護株式会社
代表取締役社長
清水 邦晃

安全安心に暮らしていただけるホームづくりを目指します

2011年度は「親を思う気持ちをカタチにする」とテーマを決め、こんな暮らしをして欲しい、できたら幸せだろうな、という事を一つひとつカタチにしていきました。

飲み込む力と噛む力が弱くなってきた方も、できるだけ長く口からおいしく召し上がっていただけるように、見た目は普通、噛むと軟らかい「軟菜食」の導入。認知症に関する知識やスキルを高めようと、福祉先進国であるスウェーデンの会社と業務提携。動物と一緒に暮らせるホームの開設。在宅の方へおいしい食事とアクティビティにより、いつまでも元気に暮らしていただきたいという思いからサービス「Happyデイズ」の開設。

2012年度は、「もっともっと安全安心に暮らしていただけるホームづくり」をテーマに介護技術向上のための研修を強化します。認知症、4大ゼロ、ターミナルケア、栄養マネジメントのスキルを上げ、ワタミのホームやサービスをご入居者様・ご利用者様の笑顔でいっぱいにしていきます。

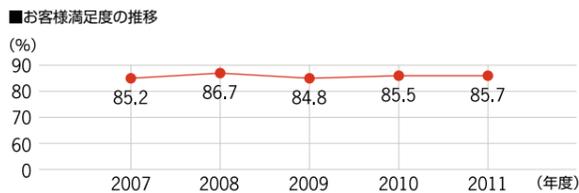
ご入居者様、ご家族様満足度の向上を目指して

ワタミの介護は、各ホームにご意見箱を設置、また、毎月1回お客様へお送りするご請求書の中に、「お客様アンケート」を同封し、ご意見・ご感想をいただいています。アンケートの評価は5段階となっており、「良い評価」である「5」「4」が100%、「最も低い評価」である「1」が0件となることを目標にしています。2011年度は、3,299件のご意見をいただき、目標の「100%0件」に対し、「85.7%36件」でした。

アンケートを通していただいた貴重なご意見は、毎週行われる「業務改革会議」で確認し、苦情については内容を真摯に受け止め、すぐに改善策を講じています。同時に、課題点を従業員全員で共有し、改善に努めています。

年に1回、項目を増やしたアンケートも実施しています。

また、ホームの運営サービスに関して、ご入居者様・ご家族様から様々なご相談・ご要望を承れるよう「お客様相談窓口」を設置しており、2011年度は、251件のお問い合わせをいただき、対応いたしました。



4大ゼロへの取り組み

ワタミの介護は、ご入居者様の自立支援に力を入れ、「おむつゼロ、特殊浴ゼロ、経管食ゼロ、車椅子ゼロ」を目指す4大ゼロに取り組んでいます。2011年度は、介護・医療・リハビリの専門チームが主力となり、事例発表会や事例検討会を実施しました。改善された事例だけでなく、状態の維持ができた事例、病気や機能低下を予防した事例にも焦点をあてて取り組みました。今後もより多くの事例を集め、ノウハウを蓄積し、他のホームへ展開できる状態にすることを目指しています。



認知症ケアへの取り組み

ワタミの介護は、2008年より、認知症ケアへの取り組み強化プロジェクトを行っています。

2011年度からは、福祉先進国であるスウェーデンの「オリビア社」と提携し、認知症研修を実施しています。2011年10月にはオリビア社の教育スタッフを日本に招致、スウェーデンで実施されている認知症ケアに関する研修を行いました。さらに2012年5月には、20名の社員がオリビア社を訪問、スウェーデンのホームの見学、体験実習などを通して、認知症ケアについての知識を高めました。



TOPICS

「思い出レシピ」第2弾の発行

ワタミの介護は、2012年5月、ご入居者様の思い出を何かのカタチに残したい、そして大切な人へ想いを届けていただければ、との願いをこめて「思い出レシピ」第2弾を発行しました。

「思い出レシピ」では、ご入居者様の大切な思い出エピソードをレシピとともに紹介しています。



軟菜食の導入

ワタミの介護は、「すべての方の、すべての食事がおいしいこと」を「ホームの運営基準」に掲げています。これまで、咀嚼力や飲み込む力が低下した方の機能を補う食事として、舌で押しつぶせる軟らかさでありながら、見た目や味にもこだわった「ソフト食」や、食べ物を小さく刻んで食べやすくした「きざみ食」などを提供してきました。

2011年度は、これらに加え、通常食とソフト食の中間で「きざみ食」よりも、より飲み込みやすい介護食である「軟菜食」を、順次、全ホームとHappyデイズに導入しました。これにより、ご入居者様の嚥下状態、歯の具合、咀嚼力に合わせた幅広い対応が、よりいっそう可能となりました。

※軟菜食とは…歯の欠損や義歯が原因で、固い食べ物を噛むことができない方に、歯茎でも噛めて消化しやすいように調理した食事。ソフト食よりも食感がしっかりしている。



ポークソテー：通常食



ポークソテー：軟菜食



ポークソテー：ソフト食

アクティビティ・イベントの充実

ご入居者様同士、ご家族様やお友達と一緒に楽しい時間を過ごしていただけるよう、ホームでは、アクティビティ・イベントの充実を図っています。平日5クラス・土日2クラス以上開催されるアクティビティを通じて、ご入居者様の生き甲斐づくりや日々の楽しみのきっかけづくりを提供しています。また、ご入居者様に日に日に元気になっていただけるよう、4大ゼロに紐づくアクティビティを提供していきます。

2012年度からは、新たなイベントとして「天麩羅キャラバン」を開始しました。

「天麩羅キャラバン」では、カウンター形式で、ご入居者様の目の前で天麩羅を揚げます。待つ楽しみ、香る楽しみ、音の楽しみを感じていただきながら、熱々揚げたてのおいしい天麩羅をお召し上がりいただけます。また、多くのご入居者様に召し上がっていただけるよう、お身体の状態に合わせて、量や質を工夫し、ソフト食などの提供も行います。



「iPad」を全ホームに導入

ワタミの介護は、2011年11月より順次、介護記録端末として「iPad」を全ホームに本格導入しています。

これにより、ご入居者様の健康状態を、より早くより正確に把握することを実現していきます。また、操作性の向上により業務負担を軽減させ、プレゼンテーション機能の充実による説明業務の円滑化を達成し、よりご入居者様と向き合える時間を増やし、ケアの質の向上に繋げていきます。

今後は介護記録端末としてだけでなく、ご入居者様のレクリエーションツール、職員の試験対策用教材や業界の情報収集ツールなどとして活用し、サービスの質の向上に繋げていきます。

快適な空間の実現のために

ワタミの介護は、ご入居者様によりご満足いただける空間を提供できるよう、ホームの内装改善に取り組んでいます。

<これまでの主な取り組み>

- 認知症の方に配慮し、快適な生活を考えた専用フロア「円居（まどい）」を設けたホームの開設
- 便器の位置、方向を変更することで着座する際の回転角度を小さくし、より安全にお使いいただけるトイレの設置
- ご入居者様のお体に合わせて高さを調節できる家具の導入
- ご入居者様の動きを正しく誘導できる位置に手摺を設け、より安全にお使いいただける浴室の設置

今後も、ホームと本部の従業員で意見交換を行いながら、より良い空間を提供できるよう取り組んでいきます。

より多くの“ありがとう”のために

ワタミの介護は、2011年度、過去最高となる18棟のホームを新たに開設しました。2011年度末のホーム数は79棟となり、5,000名を超えるお客様にご入居いただいています。

また、2011年度は、神奈川県相模原市にサービス「Happyデイズ」を新たに開設しました。「Happyデイズ」では、レストランという新しいコンセプトのもと、新鮮で安全・安心な食材を使い、季節感や盛り付けにも喜びを感じていただけるレストランのようなメニューを提供しています。2012年9月には、2号店目を神奈川県横浜市に開設しました。



「Happyデイズ相模原中央」のダイニング



Happyデイズのお食事例



ワタミ株式会社 取締役 兼
ワタミタクシヨク株式会社
代表取締役社長
吉田 光宏

お客様に愛される存在となることを目指して

2011年度は、新商品「まごころ万菜」の投入を行い、お弁当の商品ラインナップを拡充しました。これにより高齢者の方々のより幅広いニーズに対応することが可能となりました。一方営業面では東海、中国、四国、上信越、東北エリアにも進出し、111拠点を開設し合計258拠点となりました。この結果32都府県への拠点設置を果たすことが出来ました。また2月には「ワタミの宅食」に事業ブランドを一新し、宅食として初のテレビCMも放映しました。

2012年度は、新たに145拠点を開設し、400拠点42都府県体制の構築を図ります。そしてそれぞれのエリアで活動するまごころスタッフが広くお客様に愛される存在になるべく、編纂した「まごころ理念集」をまごころスタッフに配布し、教育機会を増やすことでワタミ理念浸透を図ってまいります。

ブランド力向上に向けては、お客様向け月刊情報誌のブラッシュアップ（宅食らいふの創刊）を図り、さらにはお弁当のお客様向けには週刊情報誌「ふかしいも」のお届けを開始いたしました。商品・サービスの継続的な改善取り組みをはじめ、私どもの真摯な経営姿勢を少しでもお伝えできればと思っております。

「高齢者向け宅配事業」から「ワタミの宅食」へ

ワタミタクシヨクは、2012年2月、展開している高齢者向け弁当・食材セット宅配などの事業の総称を、新たに「宅食事業」と変更し、事業ブランドを「ワタミの宅食」と名づけました。高齢化が進行する日本に欠かせない、言わば生活インフラを目指し、「自宅で健康的なお弁当を食べる」=「宅食」という新しいライフスタイルをご提案していきます。

ワタミの宅食のお弁当・お惣菜宅配

ワタミタクシヨクは、健康に配慮した日替わりのお弁当・お惣菜を「まごころスタッフ」が1軒1軒、手渡しでお届けしています。「お届け」は、お客様と同じ地域に住む方を中心とした「まごころスタッフ」に業務を委託し、「手渡し」を基本としています。直接手渡しをすることで、お客様とのふれあいやコミュニケーションを生み出すことに繋がります。

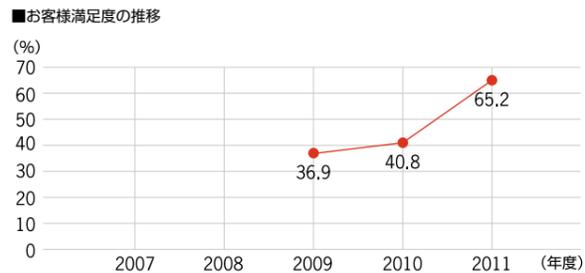
毎日の食事にお困りの高齢者の方にお食事をお届けする一方で、まだまだ働きたいとお考えの元気な高齢者の方にもまごころスタッフとして私たちの事業に参画していただいています。そして、一緒に高齢者の方を支えていきたいと考えています。

お客様満足度の向上を目指して

ワタミタクシヨクは、お客様からのご意見・ご感想をいただくため、毎月発行しているお客様向け情報誌「宅食らいふ」とともにアンケートハガキをお客様に配布しています。アンケートの評価は3段階となっており、「満足」の評価を80%以上いただくことを目標にしています。2011年度は、15,384件のご意見をいただき、「満足」の評価は65.2%でした。

お客様からいただいたご意見・ご感想は、全社で共有するとともに、献立やお届け方法の改善など、その内容ごとに担当者にフィードバックされ、改善に努めています。

また、2011年度からは、「業務改革会議」を開始しました。毎週開催することで、日々のお客様からのお電話、アンケートハガキ、メールでのご意見に対する対応状況を、迅速に全社で共有し改善へ繋げています。



※ワタミタクシヨクは2008年7月にグループ会社となったため、2008年度からのグラフとなっています。
※2011年度より、アンケートの評価を4段階から3段階へ変更しました。

地域に根ざした活動

ワタミタクシヨクは、日々の生活に不安・孤独・不便を感じている高齢者の方のために、「地域コミュニティ」での役割も果たすべく、地域に根ざした活動をそれぞれの営業所ごとに行っています。また、現地採用を積極的に行うことで、より地域に密着した活動を行うことができています。

- <各営業所での活動例>
- 東北支社
復興支援イベントや病院が主催するバザーへの出店を行いました。
 - 土浦営業所
営業所開設一周年の感謝の思いを込めて、営業所でバザーを行い、お客様をご招待しました。
 - 東村山営業所
地域の方との交流、ワタミグループが支援するSAJやRFLの紹介を目的に、バザーを行いました。
 - 山形営業所
地域の方との交流を図るため、寄席を行いました。



土浦営業所でのバザー

「お弁当箱のふたイラストコンクール」を実施

ワタミタクシヨクは、2011年度より一人でも多くのお客様と関わり合っていきたい、絆を深めていきたいという思いから、お弁当箱のふたも1つのメディアと考え、ふたを飾るイラストをお客様から募集する「お弁当箱のふたイラストコンクール」を実施しています。

2011年度は「みんなが元気になる風景のイラスト」をテーマに募集を行いました。多数の応募作品の中から10作品を採用させていただき、2012年1月より、お弁当箱のふたのイラストとして使用させていただいています。



お客様向け情報誌のリニューアル

ワタミタクシヨクは、2007年5月より、ワタミタクシヨクの取り組みを知っていただくためのお客様向け情報誌として「食卓のひろば」を毎月発行してきました。2012年2月、事業ブランドの刷新に伴い、「食卓のひろば」をリニューアル、新たに「宅食らいふ」を創刊しました。

また、調理済み商品の1週間分の献立をお知らせする週刊「ふかしいも」も新たに創刊しました。

□月刊「宅食らいふ」

「ワタミの宅食」ブランドの開発に合わせて、「宅食」という新しいライフスタイル提案の核となる情報誌として発行しています。ワタミタクシヨク、およびワタミグループの思いや取り組みについて、地域密着、顧客密着という事業コンセプトを盛り込みながら、情報の量・質を向上させていきます。



□週刊「ふかしいも」

従来よりお客様に配布していたお弁当の献立表を発展させ、週刊の情報誌として新創刊しました。まごころスタッフからのメッセージを思わせる手づくり感を表現したデザインで、毎日の食と健康を中心とした、役立つ情報をお届けしています。また、読者の投稿コーナーも設け、お客様との交流を図っています。



よりご満足いただける商品を目指して

ワタミタクシヨクでは、専任の栄養士が塩分カロリー、栄養バランスに配慮し、四季折々のパリエティ豊かな献立を考えています。また旬の食材や季節メニューを取り入れ、お客様が季節にふれるきっかけとなるようにも配慮しています。

2012年2月には、主力商品である「まごころ万菜」の内容をさらに充実したものにすため、食品数を25品目から30品目に、野菜の使用量を150gから175gに増加しました。

また、2012年3月から、関東・関西地方の約400名のお客様を対象に、日々の商品に対してのご意見を直接お聞きするアンケートを実施しています。このアンケートを通して、「一品ごとの料理に対する評価」「一食の献立に対する評価」を集計し、品質向上に活かしています。



まごころ御膳 まごころおかず



まごころ万菜

より多くの“ありがとう”のために

ワタミタクシヨクは、2011年度、新規エリアとなる東海、中国、四国、上信越、東北地方への展開を進め、累計で111カ所の営業拠点を開設しました。2011年度末の営業拠点数は258カ所、1日あたりの調理済み弁当配食数は215千食となりました。

2012年度は、過去最多となる145カ所の営業拠点を開設します。2012年度末には42都道府県にまで宅配エリアを拡大し営業拠点は400拠点を超える予定です。

□電動自転車でのお届けエリア拡大

宅配エリアの拡大に伴い、電動自転車でのお届けエリアも拡大しました。

お弁当のお届けには、自動車を使用していますが、都心部では、交通渋滞や駐車スペースの確保が困難など、問題が発生します。ワタミタクシヨクは、その問題を解決するため、2010年度からお届けに電動自転車を使用しています。

2012年度7月現在は、230台の電動自転車を使用し、東京都内のお客様にお弁当をお届けしています。今後は、関西エリアでも使用していく予定です。



さらなる付加価値創造と社会貢献を実現し続けます。

2011年度はワタミファームとの連携を強化し、「フルアソート体制(規格外の作物を活用すること)」を戦略的に進め、畑作部門の黒字化を達成しました。今後もMD事業の核である製造拠点「ワタミ手づくり厨房(以下、手づくり厨房)」の近隣に農場を展開し、供給先の自社工場が近くにあることを有効活用することで農場の効率化を進め、同時に手づくり厨房としては、鮮度の高い野菜を使用することで製品の品質向上、原価低減に取り組み続けて参ります。

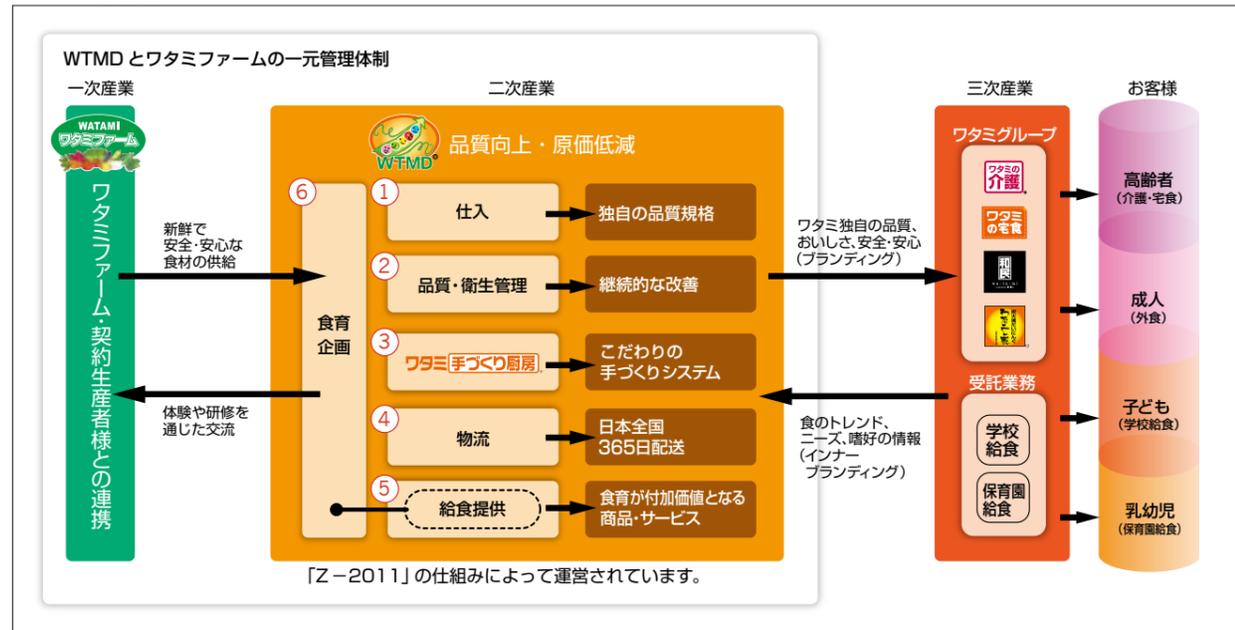
宅食事業の全国展開に対応すべく、2012年5月に「手づくり厨房中京センター」を開設しました。続けて2013年1月には、「手づくり厨房岩国センター」を開設する予定です。

2012年度は、ワタミエコロジーとの連携強化によりMD事業の環境負荷を削減する新たな取り組みが始まっています。生ごみリサイクル(堆肥化)、再生可能エネルギーの導入など順に挑戦していきます。各地域に展開させて頂いている手づくり厨房を拠点に、農業と環境事業との連携を強化し、さらなる付加価値創造と社会貢献を継続的に実現し続けます。



ワタミ株式会社 取締役 兼
ワタミ手づくり
マーチャндаイジツグ株式会社
代表取締役社長
門司 実

WTMDの事業内容



「Z(ゼータ)-2011」の策定と運用

WTMDは、2011年度、自社独自のマネジメントシステムである「Z-2011」を策定しました。「Z-2011」とは、品質向上、原価低減を目標としたPDCAマネジメントサイクルです。

「Z-2011」は、品質はもちろん、環境目標、安全な組織・センターの運営、経理などを一つにまとめたマネジメントシステムです。これまで取得してきた品質マネジメントシステムISO9001に、予算、資産、経費管理の項目を追加することで、品質向上、原価低減のバランスのとれたマネジメントシステムとすることができました。

WTMDでは、「Z-2011」を全社に展開、これをもとに各分野において自社独自の基準設定や、改善活動に取り組んでいます。

品質へのこだわり

WTMDは、お客様に安全に、安心してご利用いただけるように、食材に関する法律を順守し、生産地、生産者、原材料の安全性を確認し、適切な品質管理のもとで製造(生産)された食材だけを使用しています。

この独自の品質基本方針のもとで、残留農薬検査、細菌検査などの品質検査の結果や、原材料の栽培、飼育などに遡った生産履歴を把握するプロセス管理を重視しています。

安全性の確認は、「野菜類」「魚介類」「肉類」などの原材料ごとに品質検査の基準を設け、その主要原材料を中心に「原材料」と「製造」の2つの面から行っています。

製造における衛生管理

ワタミ手づくり厨房(集中仕込みセンター)では、徹底した品質・衛生管理のもとで、安全・安心な製品を製造、出荷しています。

各センター内には検査室を設置し、生産される商品や原材料自体の抜き取り検査や、製造機械の衛生検査を実施しています。さらに、事務部門を含めた全従業員に対して衛生検査を定期的に行い、「食中毒菌をセンターに持ち込まない」体制を構築しています。

2011年度は、新たに「衛生重点改善項目」を設け、衛生面において特に注意が必要な事項を全従業員が意識できるようにしました。

調理における衛生管理

WTMDでは、ワタミグループの外食店舗や介護施設において「高い衛生管理レベルを維持する」ことを目的に、衛生センターの主管で、外部検査機関の専任巡視員による「衛生検査」を実施しています。検査は、食材の管理やキッチン機具の清掃、微生物検査など47項目にわたって実施され、外食店舗や介護施設のスタンダードを確認しています。

2011年度は、1,253回の巡視を行い、平均点は昨年より2点高い、84.9点という結果になりました。

ワタミ手づくり厨房の新規開設

WTMDは、宅食事業の拡大に対応するため、2011年9月に東松山センター(埼玉県比企郡滑川町)を、2012年5月に中京センター(愛知県津島市)を、新たに開設しました。東松山センターは関東地方、中京センターは中部地方の宅食専用工場として、宅食事業の拡大を製造面からサポートしています。どちらも人材の育成、最適な製造方法の検証などを行う基幹センターとして稼働しており、1日あたりの製造数は、東松山センター6万食、中京センター10万食を目標にしています。また、2013年1月には、山口県に岩国センターを開設する計画です。



ワタミ手づくり厨房中京センター

WPIの推進

ワタミ手づくり厨房では、あらゆるムダを徹底的に排除して、「総原価低減を図る」ことを目的とした「多品種・少量生産体制」を敷いています。この体制のもと、継続的に製造ライン(レイアウト)や従業員の移動歩数など、全製造工程を見直す独自の改善活動WPI: Watami Product Innovationを行っています。

各センターで行われているWPIの取り組み結果は、毎月全センターで開示され、改善事例を水平展開し、より効率的な製造を実現しています。さらに、年一回、「WPI改善事例発表会」を行い、優れた改善事例を表彰しています。

2011年度は、宅食事業専用センターへWPIを展開し、センター投資額の抑制に貢献、今後は、すべての宅食事業専用センターへ展開していく予定です。

保存料不要な当日配送

WTMDは、新鮮さを保った料理をお届けするために、製造された食材を当日のうちに、温度管理された配送車で各事業拠点などへお届けしています。(一部食材を除く)

配送時間が短く、温度管理された配送システムにより、商品の劣化が抑えられるため、食材に保存料を使用する必要がなく、一切加えずに製造しています。

給食の受託

WTMDは、学校、保育園から給食業務の委託を受け、カロリー、塩分などの栄養管理やアレルギー、離乳食にも対応したお食事を提供しています。

また、食育にも取り組んでおり、保育園では2011年度、「食育キャラバン」と称し、魚の解体ショーを行いました。

放射性物質の新基準への対応

WTMDは、食育企画部を中心に、2012年4月に政府から公示された、食品中の放射性物質の新基準値への対応を進めています。

□保育園給食製品の検査体制について…2012年度より保育園へ出荷する全製品の放射能検査を毎日実施、さらに7月からは、一部の食材においてより精密な検査も自社内で開始しました。

□国産牛肉の使用状況および検査体制について…ワタミグループでは主に米国産、豪州産の牛肉を使用していますが、一部使用している国産牛肉については、出荷元に全頭検査の確認を行うとともに、自社および第三者機関による放射性物質検査を実施しています。

□農産物の検査体制について…ワタミファームの農産物、土壌のサンプリング、および契約農場の農産物を定期的(月1回)に第三者機関に依頼し、放射性物質検査を実施して安全性の確認を行っています。また、日々の確認検査として、産地確認と併せて、ワタミ手づくり厨房入荷時に、スクリーニング検査(※)を実施しています。

(※)スクリーニング検査…表面の放射性物質の付着の有無を確認する検査



ワタエコロジー株式会社
代表取締役社長
清水 利重

「W-ECO(環境と経済の両立)」の実現を目指して

2011年度は「環境貢献の輪」を広げるために、廃棄物に関するあらゆる施策を講じつつ、リサイクルループの拡大を行い、「W-ECO(環境と経済の両立)」の実現を目指して活動してきました。2011年度末現在、178店舗で食品リサイクルを行っております。(リサイクルループ111店舗、外部委託67店舗)また、2012年3月よりお取引業者様にご協力をいただき、首都圏の外食店舗から排出される雑ビンの全てをリユース・リサイクルする取り組みを開始し、コスト削減も実現しました。

2012年度はその取り組みをさらに進化させる年度と位置づけております。その象徴となる取り組みが「エコ・ファーストの約束」として記されています。リサイクルループ200店舗の達成、外食+MDの食品リサイクル率50%の達成、日本酒ビンリユースの拡大(関東、甲信越、東北の全店舗)の達成、を目指して活動していきます。2012年8月には、千葉県山武の堆肥場で土(堆肥)づくりの実験を開始し、循環型社会創造企業として新たな挑戦をしていきます。

環境専門事業会社としての活動開始

ワタエコロジーは、「様々な施設における環境改善を行うことにより、現在進行している地球規模の環境問題の改善に寄与する」ことを目指し、環境対応型メンテナンス事業を行ってまいりました。

2012年4月、事業内容を整理し、循環サービス事業部と再生可能エネルギー事業部とで、改めて活動を開始。事業内容を「環境事業」に特化しました。ワタエコロジーは、循環サービスのビジネスモデルを確立し、廃棄物の側面から地球環境負荷を削減し、循環型社会を目指します。

また、ワタミグループでは、3年前から検討していた再生可能エネルギー導入を正式に決定。秋田県にかほ市の市民風力発電プロジェクトに参画しました。風力発電事業は、ワタエコロジーの新規事業として取り組んでいきます。1号機に引き続き、2号機以降についての可能性も調査中です。

▶ 風力発電事業については、特集P12~13をご覧ください。



廃棄物の適正管理

①

各事業施設から排出される廃棄物の収集・運搬・処分については、様々な法律上の制約があり、無認可作業や不法投棄などの不正があれば排出事業者が罰則の対象となります。

ワタエコロジーは、コンプライアンスのもと廃棄物処理が行われているかを、厳重にチェックし、適正価格かつ安全で安心なスキームが運営されるようお取引業者様との強固な関係を構築して「廃棄物処理管理」というサービスを確立しています。

2012年3月末現在、グループ会社と588の外部サイトから業務を請け負っています。

□ 電子マニフェストの運用

ワタエコロジーは、ワタミグループのすべての外食店舗、介護施設における産業廃棄物の収集において、「電子マニフェスト(※)」を導入しています。これにより確実なマニフェスト管理を行うことができています。

※電子マニフェスト
産業廃棄物の処理を委託する際に必要となる、産業廃棄物の名称、運搬業者名、処分業者名、取り扱い上の注意事項などを記載したマニフェスト(産業廃棄物管理票)の情報を電子化して、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の3者が情報処理センターを介したネットワークで、正確な情報や、処理が適正にされているかを把握する仕組みです。

廃油のリサイクル

①

ワタエコロジーは、お取引業者様のご協力のもと、ワタミグループ外食店舗から回収された廃油のリサイクルに取り組んでいます。外食店舗から回収された廃油は、精製され、必要な成分のみ抽出され、石鹸にリサイクルされています。石鹸は、ワタミグループの一部外食店舗でも使用されています。

リサイクルループの推進

②

外食業界では、食品リサイクル法に基づき、企業ごとにリサイクル率の向上に取り組んでいます。

ワタミグループは、ワタエコロジーを推進役として、自社のみならず業界としてのリサイクル率の向上促進のため、企業連携を含めたリサイクルループの構築を推進してきました。そして2010年5月、国内大手居酒屋チェーンとして初めて、環境省・農林水産省から「リサイクルループ」の認証を得ることができました。(※1)

2011年度は、178店舗で生ゴミのリサイクルを実現させました。2012年度は「エコ・ファーストの約束(※2)」に明記した通り、200店舗まで拡大していきます。

(※1) リサイクルループ(再生利用事業計画認定制度)
農畜水産物などの利用までを含めた計画的な食品循環資源の再生利用の取り組みを主務大臣が認定することにより、再生利用の促進に関わる関係者の連携を推進するとともに、認定事業者による的確な再生利用の実施、廃棄物処理法の許可手続などの簡素化による効率的な再生利用の実施を確保する。制度上、食品関連事業者、特定肥料料など製造業者、特定肥料料などの利用者の三者で申請することとなっている。

(※2) 「エコ・ファーストの約束」
グループ環境方針「W-ECOビジョン2020」を受けて2012年までの具体的な目標設定をしている中期計画となります。

ワタエコロジーが推進する土づくり

③

ワタエコロジーは、2012年8月より、ワタミファーム山武農場の近辺にて生ゴミリサイクル=堆肥化(土づくり)の実験を行っています。製造された堆肥は、ワタミファーム山武農場へ投入します。実験結果を経て、2014年11月には本格稼働させる予定です。

また、ワタエコロジーは、ワタミファーム白浜農場を12a借りて、生ゴミ由来の炭と堆肥を利用した土壌改良実験を行っています。ワタミファームと外部研究機関に育成および調査分析のご協力をいただき、進めています。



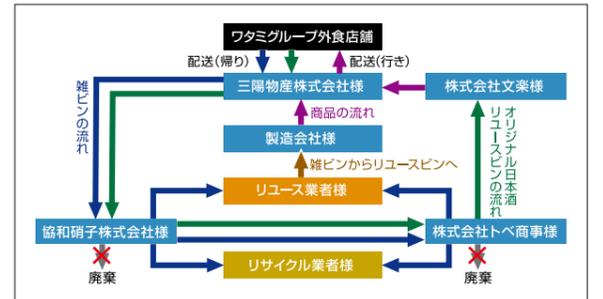
土づくりセンターでの堆肥化実験

リユースビンの取り組み

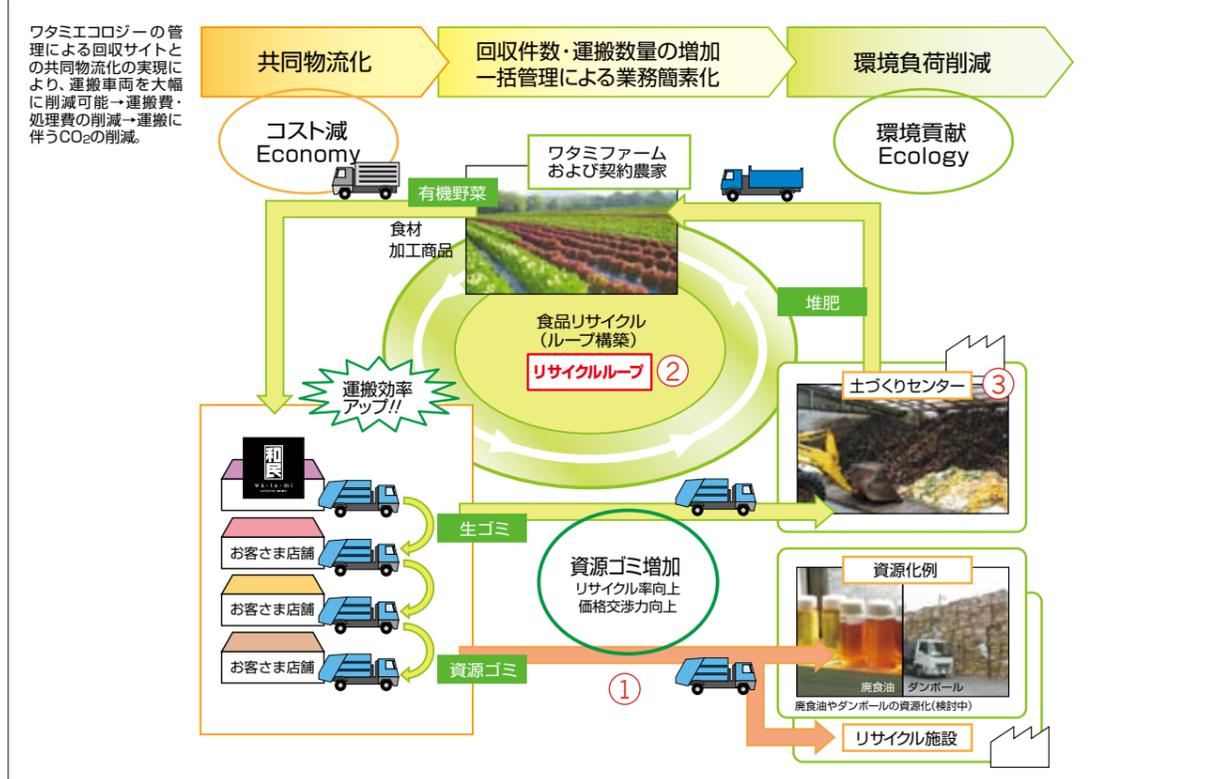
ワタミグループは、2009年10月より、ビン廃棄量を抑制するため、オリジナル日本酒の空ビンリユースに継続的に取り組んでいます。2012年3月末現在、神奈川県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都のワタミグループ外食店舗において実施しています。2012年度は、「エコ・ファーストの約束」に明記した通り、甲信越、東北地域の全店舗にも取り組みを拡大していきます。

また、2012年3月より、関東地方のワタミグループ外食店舗346店舗を対象に、雑ビンの配送便回収を行っています。今まで地域ごとに廃棄物処理業者へ委託していた雑ビンも、物流会社様による飲料配送時の帰り便で一括回収することで、全種類のビンの回収、全量リサイクルおよびリユースを行っています。これにより、月間74tの廃棄物を削減し、資源の有効活用にご貢献することができました。また、ビン回収の効率化により運搬・処分費用を削減することができました。

■日本酒空ビンリユース、雑ビンリサイクルおよびリユースの流れ



■ワタエコロジーが提案する廃棄物処理管理



株主様とともに

ワタミ(株)では、安定配当の維持、株主様への還元を図るとともに、迅速かつ正確な情報開示に努めています。また、積極的なIR活動を行うことに加えて、皆様のご意見に真摯に耳を傾け、活動に反映させることを基本としています。



安定配当の維持、健全性の高い経営の維持

ワタミ(株)は、株主様への利益還元を経営上の重要課題の一つと考え、安定配当の維持を基本としながら、配当性向20~30%を目安として業績と財務状況などを鑑み、配当を実施しています。2012年3月期は25円配当で、配当性向は29.2%となりました。また、健全性の高い経営を維持していくために財務の健全性・安定性を確保するとともに、事業特性に応じた投下資本利益率(ROI)や内部収益率(IRR)などの基準を設定し、投資効率を重視した経営を行っています。同時に、資本コストなどの指標も投資配分や事業の拡大・撤退の基準として活用し、資本効率の最大化に努めています。

IR説明会を全国各地で開催

ワタミ(株)は、今後のワタミグループの経営や事業にご意見を反映させることを目的として個人株主様、投資家様向けのIR説明会を積極的に開催しています。

2011年度は、札幌市・千葉市・静岡市・名古屋市・広島市・福岡市の全国6カ所で開催、多くの株主様にご参加いただきました。

適切な情報開示

ワタミ(株)は、決算発表の同日に、株式市場関係者・報道機関の方々を対象とした「決算説明会」を実施しています。

決算説明会の内容はワタミふれあいホームページにて動画配信するとともに、その資料の内容も公開しています。

さらに、機関投資家様、アナリストの方々に対してのスマールミーティングの開催や、IR担当者が直接訪問し、決算数値・事業内容についてお伝えする1on1(ワンオンワン)ミーティングを実施しています。

「株主ふれあい通信」の発行

ワタミ(株)は、株主様ご優待制度のご案内に加え、半期ごとの各事業の取り組みや社会貢献活動などを記載した冊子「株主ふれあい通信」を年2回、株数に応じた「株主様ご優待券」とともに、株主様にお送りしています。

日頃よりご支援いただいている株主様に、ワタミグループへの理解をより深めていただけるよう作成しています。

2012年5月に発行した株主ふれあい通信



株主様ご優待制度

ワタミグループの商品やサービスを、株主様にもっとご利用いただきたいという思いから、株主様ご優待制度を充実させています。

株主様ご優待券は、国内外食店舗でご利用いただける他、ワタミの介護の介護施設での体験ご入居、見学会、ご入居費用に、また、ワタミの宅食のお弁当・食材セットのご購入時に活用していただくことができます。

2012年度上期は、株主様限定で「わたみの特撰おせち」を一般予約受付よりも早くご予約いただけるようにし、代金の一部として株主様ご優待券をご利用いただけるようにしました。また、2012年9月と10月に開催される「農場体験ツアー」でも、代金の一部としてご利用いただけるようにしました。

株主様ご優待券での社会貢献



ワタミ(株)では、未使用の株主様ご優待券を公益財団法人SAJへの寄附として受け付けています。寄附は1枚からしていただくことができ、1枚150円分となります。

東日本大震災を受けSAJの活動に災害支援活動が追加されたことに伴い、2011年6月からは、被災地への支援金としても寄附していただけるようにしました。2012年1月末までに420,600円を、株主様ご優待券での支援金としてSAJに寄附させていただきました。

長期株主様優待制度

1,000株以上の株式を、3年以上保有された株主様を対象として「長期株主様優待制度」を設けています。(2009年3月期の株主名簿よりカウントされます。)対象となる株主様には、記念品として、千葉県山武市にあるワタミの森の間伐材を使用した額入りの感謝状、その他オリジナルグッズを贈呈しています。2012年3月末現在、1,350名の株主様に贈呈いたしました。



定時株主総会の開催

ワタミ(株)は、2012年6月30日(土)、両国国技館にて、「第26期定時株主総会」および「ワタミ感謝祭 渡邊美樹 LIVE 2012」を開催し、株主様・同伴者様および招待者様など延べ9,500名の方にご参加いただきました。

当日は「ありがとうをつなぐ日」と題し、日頃の感謝の意をお伝えするとともに、ワタミグループが1年間行ってきた「ありがとうを集める活動」としての事業活動や社会貢献活動をご報告しました。

会場には、各事業会社や、ワタミグループが支援している3つの社会貢献団体のブースを設け、それぞれの活動を紹介させていただきました。



第26期定時株主総会の様子



会場ロビーの様子



ワタミタクシヨクのブース



NPO法人 Return to Forest Lifeのブース

ワタミ感謝祭

ワタミ感謝祭のメイン会場では、総合司会者として草野仁さんをお迎えし、13時から15時半まで2時間半にわたり、「渡邊美樹 LIVE 2012」を開催しました。

オープニングのトークセッションでは、陸前高田市の戸羽市長をお迎えし、東日本大震災直後から継続的に行っている被災地への支援活動についてご紹介させていただきました。

また、2012年4月から始まったニッポン放送「渡邊美樹 5年後の夢を語ろう!」(毎週土曜15時から放送)の放送記念として、公開収録を行いました。ゲストには貴乃花親方をお迎えし、5年後の夢について渡邊美樹と対談を行っていただきました。



総合司会者の草野仁さん



陸前高田市の戸羽市長



貴乃花親方

関西経営説明会

ワタミ(株)は、2012年7月7日(土)、株主様との直接のコミュニケーションの場として、「関西経営説明会」を大阪府大阪市で開催しました。当日は、「第26期定時株主総会報告」ならびに「2011年度業績報告および2012年度事業計画説明」について、説明をさせていただきました。経営説明会終了後には、取締役会長 渡邊美樹による講演を行い、昨年度の活動や今後行う活動について、説明させていただきました。

当日は、376名の株主様、ご同伴者様にご参加いただきました。

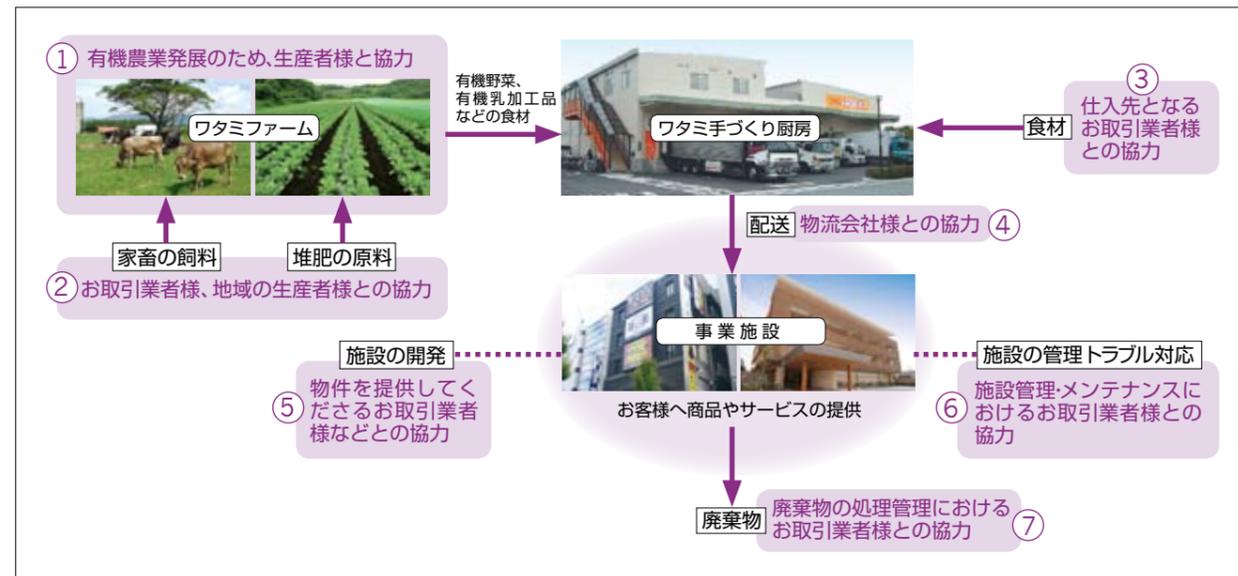
お取引業者様とともに

お取引業者様は、お客様へ安全・安心な商品の提供や、よりよい社会づくりを目指す「ともに成長できるパートナー」と考えています。

情報・状況を共有しながら共存共栄できる取り組みを行うことや、公平・公正な取引の徹底で、相互理解・信頼関係の強化・構築に努めています。



■お取引業者様との協力体制図



公平・公正な取引の徹底

ワタミグループは、公平・公正な取引を徹底することで、サプライチェーン全体を通して協力体制をつくり、お取引業者様との相互理解・信頼関係の強化・構築に努めています。

新規でお取引を開始する際は、稟議システムを活用し、必要事項を記入した帳票を関係部門と管理部門にて審議した上で、業務の遂行を行う体制をとっています。

生産における協力体制

①②

□有機農業の発展のための協力体制

ワタミファームは、少しでも多くの有機農産物をお客様にお届けするために有機農業のネットワーク拡大を目指しています。そのため、年に1回、生産者会議を開催し、土づくりや栽培技術などの事例や、各地域における有機農業推進のための取り組み内容を共有しています。

この会議の終了後には、参加者同士の交流を図ることを目的に、懇親会も実施しています。2011年度は、60名の生産者様に参加していただきました。

□堆肥・飼料の原料仕入れでの協力体制

ワタミファームは、「環境への配慮、資源の有効活用」をテーマとし、お取引業者様との協力体制を構築しています。

ワタミファーム瀬棚地区や弟子屈牧場では豆乳の製造時に発生するおからやビール粕、そして大豆生産の際に発生する規格外品を家畜の飼料として活用しています。また、各農場では地元から発生する食品残渣(茶殻・コーヒー粕・落花生粕など)や家畜の糞尿を堆肥化して圃場に投入しており、地元での循環型モデル構築を積極的に推進しています。

仕入・調達における協力体制

③

□仕入部門における公平・公正な取引

WTMDは、1996年に策定された「購買管理規定」に基づき、独自の基準を設定しています。新規お取引業者様を含め公平で公正なお取引を実現するために、継続的に使用されている食材などについては、随時、品質・価格の評価を行っています。

□安全・安心な食材を提供するための協力体制

WTMDは、お客様に安全に、安心してご利用いただけるよう、食材に関する法律を順守し、原材料の安全性を確認し、適切な品質管理のもとで製造(生産)された食材のみを使用しています。

仕入先(提携先)となるお取引業者様においては、ワタミグループの理念に共感していただけるサプライヤー(工場)であることを優先させていただいています。

また、定期的にお取引業者様を訪問し、以下の項目について確認を行っており、安全・安心のための対話を重視しています。

<確認項目>

- 細菌検査結果の確認
 - 生産地、生産者の確認
- 加工食品においては、以下の確認も行っています。
- 原材料別の生産地や生産者を確認
 - 製造工程表の確認
 - 製造工程における温度管理の確認
 - 製造工程における異物混入対策の確認

物流における協力体制

④

□WLIの推進

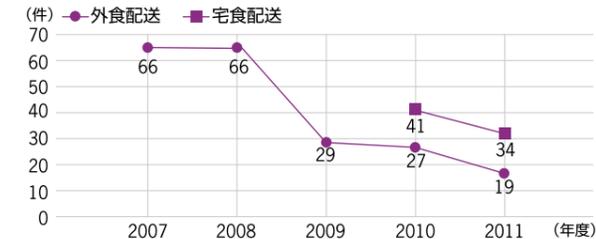
WTMDは、2007年度より、機会損失などの要因となりうる物流関連クレームを「重大な品質クレーム」と位置づけ、それを未然に防ぎ、低減させるべく、物流会社様とともに改善活動WLI: Watami Logistics Innovationを行っています。

その一環として、それぞれの物流会社様に業務改善テーマを設定していただき、毎月の「定例会議」で活動の進捗管理を行い、年2回開催される「全国物流会議」で改善結果を発表していただいています。活動結果を共有する場を設け、各社が切磋琢磨し合うことで、品質クレームを減少することができ、同時に物流会社様とWTMD双方の従業員の管理能力を向上させることができます。

2011年度の品質クレームは、外食店舗・介護施設への配送(外食配送)では19件、宅食営業拠点への配送(宅食配送)では34件となりました。また、半期品質クレーム0件を達成された企業様10社を表彰させていただきました。

2012年度は、外食配送18件以下、宅食配送33件以下を目標にしています。(事業拠点数拡大を考慮し、絶対数で前年度以下になるよう目標を設定しています。)

■品質クレーム発生件数推移



□定期監査の実施

WTMDは、2006年度より飲料配送、2010年度より食材配送における運行管理や安全運転、商品の取り扱い状態など、46項目において定期監査を行っています。

2011年度は10拠点において監査を実施しました。今後は、WLI・お取引業者様評価(※)に監査を統合していきます。

※お取引業者様評価
6つの評価項目(組織力・提案力・構築力・管理能力・改善力・思い)において、5段階評価で、それぞれお取引業者様を評価させていただきます。この評価結果と、その年度の品質クレーム件数・内容を踏まえ、次年度のお取引内容(業務範囲)を決定しています。

施設開発における協力体制

⑤

□WFSでの取り組み

WFSは、新規物件の建設にあたり「入札説明会」を実施、また年2回の施工者ミーティングにて情報を開示し、公正な取引の強化に努めています。物件を提供していただいているお取引業者様へは、定期的な訪問を行い、日頃の感謝をお伝えするとともに積極的な意見交換に努めています。

□ワタミの介護での取り組み

介護施設のオーナー様は、個人の方をはじめ、企業様まで幅広くいらっしゃいます。お取引業者様からのご紹介をいただき、ワタミグループおよびワタミの介護の企業理念を理解していただき、信頼関係を構築してはじめて、長期に亘る共同事業が成り立ちます。

そのための主な取り組みとして、オーナー様およびお取引業者様に、介護施設や、ワタミの介護が行っている各種イベントを実際にご見学いただいています。

施設管理における協力体制

⑥

□ビジネスパートナーシップ(BPS)を活用した施設管理

2012年4月、ワタミグループ外食店舗、介護施設における施設管理・メンテナンス業務が、ワタミエコロジーからワタミ(株)に移管されました。

ワタミ(株)は、外食店舗、介護施設でのトラブルなどに迅速に対応するため、お取引業者様と連携して施設管理・メンテナンスに取り組んでいます。お取引業者様とは「ビジネスパートナーシップ(BPS)」を構築し、ワタミグループのビジョンの共有や品質向上を目的とした「BPS会議」を開催しています。2012年8月末現在、関東・関西地方にて各1回ずつ開催し、106社のお取引業者様に参加していただきました。会議の終了後には、参加者どうしの交流を図ることを目的に懇親会も実施しました。

廃棄物管理における協力体制

⑦

□お取引業者様と協力した適切な廃棄物処理

ワタミエコロジーは、コンプライアンスのもと、適正価格かつ安全で安心な廃棄物処理管理が行われるよう、お取引業者様との強固な関係を構築し、廃棄物処理管理というサービスを確立しています。約300社のお取引業者様と積極的に連携するため、施設管理と同様、BPSを構築、BPS会議を開催しています。

2011年度は、地域別の会議、全国のお取引業者様を対象とした会議を、各2回ずつ開催し、約150社のお取引業者様に参加していただきました。

海外での取り組み

□ビジネスカンファレンスの開催

ワタミインターナショナルは、2011年度、ワタミインターナショナル幹部、各地域運営会社幹部、そしてフランチャイズオーナー様が一堂に集まり、今後の展開方針を確認すると同時に、関係者どうしの懇親を深める場として、ビジネスカンファレンスを開催しました。カンファレンスでは、ワタミグループおよび海外外食事業の2011年度の実績と2012年度の計画を報告していただき、フランチャイズオーナー様との意見交換も行いました。今後も、毎年1回開催する計画です。

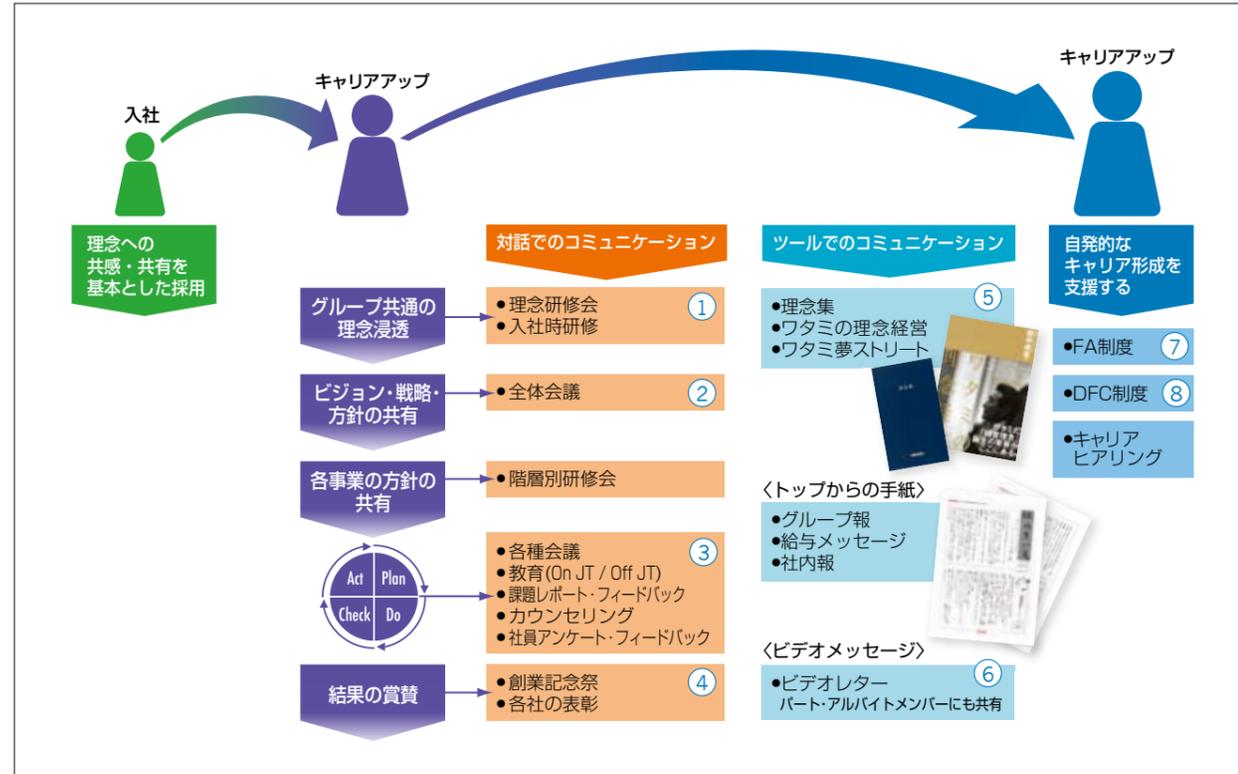
従業員とともに

ワタミグループでは、全社員が理念を共有し、社員一人ひとりがそれぞれの思いを実現していく組織を目指すことが、会社の成長につながると考えています。

グループ共通で、「明るくのびのびと仕事をしよう」という合言葉を実現する職場づくりを行っています。



■グループ共通で行っている従業員との対話



理念研修会の開催 ①

ワタミグループは、グループの「原点」を振り返ること、一人ひとりの社員がワタミの理念を体現できるようになることを目的に、4カ月に1回、「理念研修会」を実施しています。研修では、ワタミグループのトップの講話や質疑応答、理念をテーマにグループディスカッションを行い、理念のより深い理解を促進しています。

全体会議の開催 ②

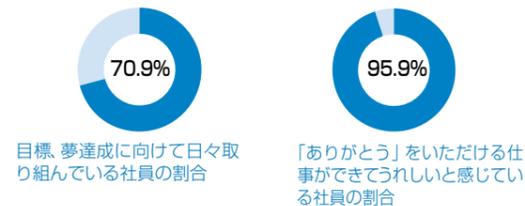
ワタミグループは、毎年2回春と秋に、関東と関西にて、全体会議を開催しています。ワタミグループの各事業に関する半期の情報共有の場、各社の方向性と戦略を知るための場として開催しており、ほぼすべての社員が参加しています。



社員アンケートの実施 ③

ワタミグループは、一人ひとりの社員に寄り添い、社員の現状を把握することを目的に、全社員に対して社員アンケートを実施しています。アンケート結果に関しては、グループ各社の教育担当が共有・協議し改善策の立案・検証を行っています。

■社員アンケートの最新結果(一例) ※実施期間2012年3月～5月



創業記念祭の開催 ④

ワタミグループは毎年、創業記念日の5月16日前後にグループ全社員が集まるイベントとして「創業記念祭」を開催しています。ワタミの歴史を振り返るとともに、仲間の社員の取り組み施策を共有・賞賛することで原点に立ち返ることが目的です。

2012年度は、社員の理念に基づいた活動を紹介した他、全社員が自身の1年間の決意を「決意カード」に記入しました。

理念集の活用 ⑤

ワタミグループは、創業者の価値観・使命感が日々の現場の様々な事例をもとに解説された「理念集」を全社員に配布しています。理念集は、日々理念と触れるため、いつも社員が携帯することに加え、より理解を深めるための「理念研修会」において「ワタミの理念経営(※)」とともに徹底して活用しています。

※ワタミの理念経営 会社の創業から25年の歴史をまとめ、「経営理念」の誕生の背景を共有する著書

ビデオレター ⑥

ワタミグループは、1997年より、毎月ワタミグループのトップのメッセージを本社・各事業拠点にビデオで配布し、全従業員が視聴できるようにしています。このビデオは、グループの事業展開や活動を紹介し、パート・アルバイトメンバーにもワタミの理念を理解してもらうきっかけとしています。

FA(フリーエージェント)制度 ⑦

ワタミグループは、「もっと大きな仕事にチャレンジしたい、個性や経験を活かした仕事をしたい」という意欲を持つ社員をバックアップすることを目的に、FA制度を導入しています。

2011年度は、48名の応募があり、28名が希望の会社・部署に異動しました。

社員独立支援制度(DFC制度) ⑧

ワタミグループは、1995年より、社員の独立支援を目的にした「DFC(ダイレクトフランチャイズ)制度」を導入しています。この制度の目的は、「独立して自らが経営する外食店舗で、ワタミグループの同志として同じ目的のために戦うフィールドを用意すること」、「ワタミグループの同志として、また一人の経営者として成長していく機会を提供すること」です。独立を希望する社員は、この制度を利用することで、少ない資本での独立が可能になりました。

2012年度は、新たに21名の社員が独立の夢を実現しました。2012年6月現在、71名のオーナーが104店舗(全店舗数の16.3%)を運営しています。

社員旅行の開催

ワタミグループは、全事業会社を対象として、毎年、社員旅行を開催しています。「ワタミについて社員同士が夢を語り合う場」や「仲間意識を培い、広げるきっかけとする場」をつくるのが目的です。参加した社員の意見を積極的に取り入れ、さらに満足度の高い社員旅行を目指しています。

海外での取り組み

海外では、ワタミインターナショナルが主導して、国内と同様、理念教育を基盤とした従業員との対話に、力を入れています。

□社員アンケートの実施

ワタミインターナショナルは、2009年5月より、年に2回、社員満足度アンケートESS(Employee Satisfaction Survey)を実施しています。社員の現状を把握することを目的とし、海外で働くすべての社員を対象としています。アンケート結果をもとに課題を明確化し、改善の取り組みを行い、定着率の向上を図ります。

□理念の共有

ワタミインターナショナルは、従業員を現地にて最大限雇用することを方針としています。また、ワタミグループの理念に共感していただけるかどうかを基準として採用活動を行っています。

教育面においても、中国語や英語に翻訳した「理念集」を全社員に配布、「全体会議」や「理念研修会」の開催、「ビデオレター」の視聴など、国内と同様に、理念浸透を目的とした活動を継続的にを行っています。

また、海外1号店を出店した11月には、毎年、「海外創業祭」を香港にて開催しています。日本の「創業記念祭」をモデルとし、海外で働く社員が、ワタミグループの原点・DNAを振り返り、グループで働く意味を確認する場としています。

□日本研修

ワタミインターナショナルは、海外直営会社での継続勤務年数が3年以上の店舗管理職、または本社における同等職責以上の社員を対象に、日本研修を行っています。研修を通して、ワタミグループの文化を理解し、維持するために、どのような取り組みを行っているのかを把握し、自らの行動計画に結びつけることが目的です。

日本研修では、外食店舗やワタミ手づくり厨房、ワタミファームなどを訪問し、ワタミ独自のマーチャンダイジングシステムや、トレーニング方法、店舗運営基準に基づいた営業方法を学びます。



外食事業での取り組み

WFSは、「働く従業員が、自ら考え、明るく前向きに仕事に取り組む」をテーマに人材を育成しています。アルバイトメンバーに対しても研修制度を取り入れ、働くことに喜びを感じ、自ら行動できる人材の育成に努めています。

□WBC(Watami Best-store Challengeship)

WFSは、2009年より、WBCという取り組みを行っています。外部機関の調査員の方に抜き打ちで“お客様”として入店していただき、第三者の視点から公正・公平に約60項目につき評価していただきます。その結果をもとに、上位店舗を表彰しており、2011年度は、JAPANESE DINING「和民」浦和西口店が最優秀賞を受賞しました。

この取り組みを通じて、一定のサービスレベルを超え、従業員一人ひとりが「個性を活かしたサービス」を行うことで、「お客様に感動を与える店をつくらう」という合言葉の実践・強化を行っています。

□「T.G.I. Friday's®」独自の取り組み

Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's®」では、本場アメリカのコーチング手法を学ぶ「コーチセミナー」を実施しています。各店舗においてコーチが「確立されたノウハウに基づいた育成、指導」を行うことで、従業員の自己啓発・モチベーション向上に繋がっています。



2011年度WBC優勝店舗ヘトローフィーを授与

宅食事業での取り組み

ワタミタクシヨクは、2011年度より早期にワタミグループの理念を共有してもらうことを目的に、中途社員を対象とした社内理念研修を開始しました。

また、「営業所長候補者研修」を開始し、全営業所の運営レベルを向上させ、より地域に根ざした対応を目指します。

□まごころスタッフに向けた取り組み

ワタミタクシヨクは、2012年度、「まごころ理念集」を編纂しました。まごころスタッフに「お客様を思う心」を理解してもらい、サービスレベルを向上させるため、まごころスタッフを対象とした勉強会で使用していく予定です。

また、2012年5月からは、社内ビデオレターを作成、毎月1回、各営業所に配信しています。ワタミタクシヨク社長からまごころスタッフに向けて情報を発信することで、ワタミタクシヨクの理念や仕事を身近に感じてもらうことを目的としています。

介護事業での取り組み

ワタミの介護は、日々進化する介護技術の研修はもちろん、ワタミの介護の思いを共有する「理念研修」や「パート全体研修」など、様々な講座・研修を開催し、接遇マナー、スタッフの技術力・人間性の向上に努めています。

□事例発表会

ワタミの介護は、すぐれた事例を全社で共有することで、サービスの向上に繋げていくために「事例発表会」を年に1回行っています。2011年度は、73件のエントリーの中から選考された10事例のプレゼンテーションが行われ、新しい発想に基づく取り組みに加え、ワタミの介護が目標に掲げる「4大ゼロ」や、認知症プロジェクトの取り組みなどが発表されました。

□社員向け職能別教育研修

ワタミの介護は、知識や経験にあわせた介護技術や知識を身につける研修、マネジメントスキルを向上させる研修や、「管理職向けマネジメント研修」を導入するなど、職位・職能に合わせたプログラムを組んでいます。

また、新たに「ワタミの基本介助勉強会」を開催しています。勉強会では介護技術レベルの強化を目的に、技術講師をホームに派遣し、①体位交換 ②移乗 ③移動 ④排泄 ⑤入浴 ⑥食事の6つの基本介助技術について実地研修を行っています。

MD事業、農業での取り組み

□感謝祭

WTMD、ワタミファームは、社員やそのご家族への感謝の気持ちを込めて、合同で「感謝祭」を実施しています。2011年度は、関東、関西、九州の3カ所、それぞれの地域の社員が企画した感謝祭を行いました。また、特に業務成果が大きかった社員を「社長賞」として表彰しています。

□手づくり料理コンクール

WTMD、ワタミファームは、2011年度、社員、パート、そのご家族を対象として「手づくり料理コンクール」を開催しました。「おいしさと徹底した“食”へのこだわり」を追求しているワタミグループの商品に対する思いを従業員へ浸透させることが目的です。応募総数333レシピの中から5つまで絞り、決勝戦として、残った5名の料理の試食会を本社にて実施し、表彰しました。5つの料理はワタミグループ外食店舗のメニューに導入していく予定です。

環境事業での取り組み

ワタミエコロジーは、2010年度より、「ワタミの森」に「ビオトープ」を設置し、全社員を対象として生態系保護を目的とした実習を行い、環境意識の啓発に取り組んでいます。

2012年度からは、環境に関する専門書に基づき、それぞれの社員が自分のテーマを設定、実際に環境改善に結びつく行動を起こせるよう、独自の研修会を実施しています。

理念への共感・共有を基本とした採用

ワタミグループは、事業を展開する国・地域の文化や習慣を理解、尊重した上で、学歴や性別などで差別することなく採用活動を行っています。理念への共感・共有を基本としており、新卒採用活動においては、はじめにワタミグループの理念をお伝えするセミナーを受けていただくことをグループ各社で統一しています。

2012年度は、新卒270名を採用しました。2013年度は350名の採用を計画しています。

障がい者の雇用

ワタミグループは、障がい者の方の人材募集を継続的に行い、複数の特別支援学校との提携により研修生の受け入れを行っています。業務内容としては、外食店舗での清掃、仕込み業務、クリーニング業務、事務補助などがあります。研修期間中に、双方で継続的に勤務が可能かを確認し、採用を決定しています。

2011年度の障がい者雇用比率は、グループ全体で1.94%です。

高齢者の雇用・再雇用制度

ワタミグループでは、2012年6月末現在、59名の60歳以上のパート・アルバイトメンバーが勤務しています。

また、社員が長年培ってきた豊富な経験を活かす制度として再雇用制度を設け、定年退職者で再就職を希望する方を、嘱託社員として再雇用しています。

持株会の奨励

1999年より、社員が自己資産を形成すること、そして社員の経営への参加意識を向上させることを目的に、持ち株会への加入を奨励しています。また一定以上の役職者にワタミ（株）のストックオプションを付与しています。2012年6月末現在、持ち株会を通じて、グループ社員の93.0%が、自社株を保有しています。

ライフプランナー制度

ワタミグループは、2009年度より、「ライフプランナー」によるカウンセリング制度を実施しており、社員一人ひとりが財務的なアドバイスを受けています。この制度は、ワタミグループ社員が、金銭面に関して大きな不安を抱えることなく安心して働くことを目的として導入されました。

防災訓練の実施

ワタミグループ本社と外食店舗、介護施設では、地震もしくは火災を想定した、年2回の避難訓練を行いました。今後は新たな課題に対し対策を打つとともに、安全強化のために訓練の質を向上させていきます。

出産・育児・介護への支援

ワタミグループは、社員が出産・育児・介護などに携わりながら職場で継続的に能力が発揮できるよう、出産・育児・介護に関する支援・休職など各種制度を導入しています。

法律に基づく対応をはじめ、時間短縮勤務や深夜就労・残業の制限などを行い、出産・育児や介護をしやすい環境をつくっています。2011年度は、産前産後休暇を14名、育児休暇を20名が取得しました。

家族手当、教育手当の支給

ワタミグループは、家族手当、教育手当は、社員の将来の生活不安を軽減し、安心して働き続けられる職場環境づくりのために、重要な福利厚生であると考えています。結婚、出産、子どもの進学など、生活の変化による必要所得の増加分を基本給と別に支給し、社員の不安、負担を軽減するために、家族手当、教育手当を設けています。

安全な労働環境の実現を目指して

WTMDは、すべてのワタミ手づくり厨房にAED(自動体外式除細動器)を導入し、年1回、講習を実施しています。

また、WTMDは、ワタミファームの規模拡大を受け、労働災害防止に対し、より組織的に体系立てて取り組む必要性があると判断し、2011年度より、ワタミ手づくり厨房で導入している安全管理手法をワタミファームの各農場に順次導入していくこととしました。

さらに、山武農場で、WTMDとワタミファームが協同で安全衛生委員会を新たに組織し、月1回、開催しています。山武農場で体系化した後、他の農場へ水平展開していく予定です。

ワタミグループは応援します。
「みんなの夢をかなえる会」の支援

Everyone's Dream
みんなの夢

ワタミグループは創業以来、一人ひとりの社員が「夢」を持ち、その「夢」を実現するためのプロセスの中で、周りの人の幸せに関わり、世の中の人々から“ありがとう”を集めていくことで成長することを目指してきました。ワタミグループは、夢に向かって前進する人々を応援するNPO法人 みんなの夢をかなえる会を支援しています。

📄 活動内容は、P52～53をご覧ください。

- みんなの夢シンポジウムへの協力
- みんなの夢アワードへの協賛
- 株主総会(経営説明会)でのブース出展スペースの提供
- 全体会議および研修会での、取り組みの説明機会の提供
- 活動報告誌「みんなの夢マガジン」の配信

地域・社会とともに

1995年から本格的に始まった社会貢献活動。「全社員が年に1回はボランティアに参加する」を合言葉に、社員が自主的に参加しやすいようにボランティア担当者が案内をしています。

また、地域との関わりを深めるために、本社や各事業拠点が所在する地域のイベントなどにも参加させていただいています。



ワタミグループ社員一人ひとりが行う社会貢献

ワタミグループは、社会的使命(責任)を果たすためにも、「良き企業市民」として社会とともに生きる企業を目指し、グループをあげて社会貢献活動を実践していきます。

ワタミグループは、社会貢献活動やボランティア活動とは「何かをしてあげるのではなく、何かをさせていただくことにより学び、感動し、結果として成長させていただくこと」だと考え、社員一人ひとりが、自発的・継続的に社会貢献活動を行うことを推奨しています。

活動は、「グローバル&ローカル」を基本に、地球規模的視点で捉え、かつ地域密着型で実践、推進し、「できるところからコツコツ」という考えのもと、「無理をせず、確実に継続すること」を重視しています。

「ボランティア研修」の実施

[1994年~]

1994年4月に、横浜ボランティア協会のご協力をいただき、新入社員が地域の作業所を訪問し、ボランティア活動を行うプログラムを導入、以来、新入社員の入社時研修として毎年4月に「ボランティア研修」を実施しています。

「ボランティア研修」とは、障がい者福祉施設や児童福祉施設を訪問させていただき、ボランティアを通じて「相手の立場に立ち、相手がしてほしいことをすると、ということなのか」を学ばせていただくことを目的としています。

訪問した社員は、職員の方に教わり、障がいをもった方と一緒に作業を行ったり、交流を図りながら一日を過ごします。

2012年度は、51の施設に受け入れていただき、新入社員267名が参加しました。

福祉施設開催のバザーへの参加

[1995年~]

ワタミグループは、1995年に福祉施設開催のバザーに屋台を出店して以降、継続的にバザーに参加しています。

2011年度は18回、218名の社員が参加しました。また、2012年5月には、お食事会で毎年交流がある横浜訓盲院様が初めて開催された夏祭りに参加させていただき、お好み焼の屋台を出店しました。



バザーへの屋台出店

ワタミふれあいカードからの寄附

[1996年~]

1996年度より「未来の子どもたちのために」をテーマに発行した「ワタミふれあいカード(クレジットカード)」を通じて、国内ワタミグループ外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用させていただいています。

2011年度は、ご利用総額293,603千円の1%相当となる4,345千円を公益財団法人SAJに寄附させていただきました。



お食事会の開催

[1999年~]

ワタミグループは、1999年の7月と9月に横浜訓盲院、横浜援護授産所の方々をお迎えして、初めてお食事会を開催しました。以来、ハンディキャップがあるなど社会参加の少ない方を外食店舗にご招待し、「お食事会を通じた交流会」を開催しています。嚥下障がいのある方には、ソフト食を提供させていただいています。

2011年度は、お食事会を46回行い、887名の社員がボランティアとして参加しました。

この活動を通して、サービスの原点であるホスピタリティを学び、一人ひとりが、「相手の喜びを自分の喜びに変える」ことの意味を実感できるような機会をいただいています。



集合写真



マジックを披露

授産品代行販売

[1999年~]

ワタミグループは、1999年6月より、障がいをもった方々の社会参加の後押しを目的に、居食屋「和み亭」やごちそう厨房「饗の屋」にショーケースを設置し、「授産品」の販路を広げるお手伝いをさせていただいています。

2011年度は、15店舗にて422千円を代行販売させていただきました。

また、2005年度より、定時株主総会で授産品を販売するスペースを用意させていただいています。2012年度の株主総会では、13施設の方に参加していただき、また、10施設の授産品をワタミグループが代行販売させていただきました。



株主総会での授産品販売の様子

わたみ北海道自然学校の開催

[1999年~]

ワタミグループは、1999年より毎年夏季に、小学校4~6年生を対象としたふれあいイベント「わたみ北海道自然学校」を開催しています。

この学校は、子どもたちのもつ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来もっている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できたらとの思いから始まったイベントで、毎年「命、自然、友だち、生活習慣、夢との出会い」をテーマに行われています。また、参加した子どもたちには、自らの夢を綴った「夢作文」を書いてもらい、一人ひとり発表する時間を設けています。

第14回目となる2012年度は、北海道久遠郡せたな町にて、8月7日~10日の3泊4日で開催しました。子どもたち36名と、スタッフとしてワタミグループ社員や自然学校参加者のOG15名が参加し、ハイキングやワタミファームでの野菜収穫、搾乳、海洋スポーツなどを体験してもらいました。

第14回わたみ北海道自然学校に参加した、小学5年生 齋藤月花さんの作文を紹介します。

私の夢

私には、夢が何個もあります。ですが、その中で一番かなえたい夢が、一つだけあります。それは、母と一緒に海辺でレストランを開くことです。

なぜ、私は一人ではなく母と一緒にお店を開きたいかというと、それは母の夢だったからです。母は、料理をすることが得意なので、それを私に手伝ってほしいと言っていたのです。私は、いいよと答えてから、それが私の夢にもなりました。

この夢は、もし母が私の母でなければ、私の夢にはなっていませんでした。私は、なぜ自分の夢ではなく母の夢をかなえたいと思ったのでしょうか。それは、私を今まで育ててくれて、学校にも入れてくれて、こんなにいい経験を与えてくれた、おん返しにしようと思ったからです。母のこの先の人生はきっと、私より長くないだろうと思うから、その最後にくる前に、母の夢をかなえてあげたかったからです。

この自然学校で学んだ、親は大切だということが、とても心にのこっています。だから、私はなるべく毎日「ありがとう」「ごめんなさい」を母に沢山言うように心がけています。このありがとうとごめんなさいを通じて、もっときずなを深めて夢がげんじつになるように、努力して、苦勞して、母以上にみんなに愛情を注げるように、がんばります。これで、けっして大きくない一歩だけれど、夢がかなったときに役にたつ一歩をふんだと思います。



わたみ北海道自然学校集合写真
(ワタミファーム瀬棚農場にて)



海洋スポーツ

農業インターンシップ

[1999年~]

WFSは、1999年度より、学生を対象に「農業インターンシップ」を実施してきました。農業インターンシップの目的は、単なる収穫の補助だけでなく、日本の農業に対する理解の促進や、若者に「働くこと」「自然」「農業」「仲間」と向き合う機会を提供することを目的として実施しています。

2011年度は、帯広大正農協様をはじめ、31戸の農家の方々のご協力を得て、農産物の収穫や箱詰め作業などの農作業を実施し、53名の学生に参加していただきました。

ワタミファームでの学生や法人の受け入れ

[2004年~]

ワタミファームは、2004年度より、有機農業への理解促進を目的として、学生や法人の受け入れを行っています。

2011年度、ワタミファーム瀬棚地区では、郁文館夢学園の修学旅行を受け入れさせていただきました。中学生196名に來場していただき、牧場での搾乳や畑での作付作業を体験していただきました。また、地元の高等養護学校の実習として15名を、授産施設の就学支援実習として3名を、それぞれ受け入れさせていただきました。

ワタミファーム千葉北総地区では、郁文館夢学園の農業実習として、中学1年生200名を受け入れさせていただきました。また、種苗メーカー様を講師に招き、毎月2回、実施している技術習得会には、地元の新規就農者の方にもご参加いただいています。

介護ボランティアの実施

[2006年~]

ワタミグループは、2006年度より、主に外食事業の社員を対象として、ワタミの介護の介護施設で行う「介護ボランティア」を開始しました。「介護ボランティア」では、介護施設で行われるイベントやアクティビティに参加したり、ご入居様のお食事と一緒にさせていただきます。

ボランティアに参加した社員の感想

【お食事会に参加した社員より】

食事されることを心から楽しみにされている皆様の笑顔を見ることができて、自分が飲食店で働くことの意味・目標・夢の再確認ができました。

【バザーに参加した社員より】

みんなが一つになり、心が熱くなるほどに達成感を強く感じました。バザーを通して、こちら側が元気をいただきました。

【ボランティア研修に参加した新入社員より】

施設の方の熱い思いに学ばせていただきました。「何とかしたい、どうしたらもっと良くなるのか」、この姿勢を忘れてはいけないのだと感じました。

海外での取り組み

□ボランティア活動

海外では、ワタミインターナショナルが主導して、積極的に社員のボランティア活動を支援しています。

お食事会を通じた交流会の開催や、老人養護施設への訪問、海岸・公園での清掃活動など、社員が積極的にボランティアに参加できるような機会を設けています。

2011年度は、593名の社員がボランティア活動に参加しました。

また、国内と同様、SAJの活動を支援しており、寄附による支援の他、カンボジアの孤児院や学校を訪問するツアーを開催、2011年度は28名が参加しました。



清掃活動



ボランティア活動での集合写真

□ワタミふれあいカードからの寄附

国内と同様、海外でも「ワタミふれあいカード」を発行しており、ご利用金額の一部を寄附させていただきます。

和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司は、香港、深圳のワタミグループ外食店舗でのご利用総額のうち0.25%相当を社会貢献活動を行う団体へ毎年寄附しています。

台湾和民餐飲股份有限公司は、2005年11月の開店当初よりワタミふれあいカードを導入しており、台湾のワタミグループ外食店舗でのご利用総額の1%相当を社会貢献活動を行う団体へ寄附しています。



香港のカード



台湾のカード

地域イベントへの参加

ワタミグループ本社の所在する大鳥居では、ワタミ(株)社員を中心に、町内会が開催する清掃活動(駅前清掃、スポーツGOMI拾い大会)や夏祭りなどへ参加させていただいています。

また、外食店舗、介護施設、宅食営業所、ワタミ手づくり厨房などでは、商店街のミーティングや地元のお祭りへの参加など、それぞれの地域の活動に参加しています。

今後は、ワタミグループ全事業拠点における町内会への参加を通して、地域に密着した企業活動を展開していくことを目指します。(一部、実質の町内会活動のない地域を除きます。)



スポーツGOMI拾い大会

□「自然体験ツアー」への協力

ワタミグループは、2011年11月、青少年対策羽田地区委員会主催の「自然体験ツアー」に協力させていただきました。当日は、参加した30名の小学生の子どもたちに、ワタミファーム山武農場で野菜の収穫を体験してもらい、有機農業について説明していただきました。

また、ワタミグループが支援するRFLの協力のもと、「ワタミの森」にて間伐や植樹も体験していただきました。

ワタミグループは応援します。 「School Aid Japan」の支援

ワタミグループは、開発途上国の子どもたちへの教育支援を行う公益財団法人 School Aid Japanの活動を全社員で支援しています。▶ 活動内容は、P48~49をご覧ください。



ワタミグループの支援内容

- 外食店舗、介護施設、宅食営業所での募金箱設置
…2011年度寄附金額 2,249千円
- 従業員が給与天引きで寄附できる体制の構築
…従業員からの2011年度寄附金額 37,461千円
- ワタミグループによる法人会員寄附
…2011年度寄附金額 720千円
- 株主総会(経営説明会)における
ブース出展スペースの提供
- 全体会議および研修会における
取り組みの説明機会の提供
- 活動報告月刊誌「スマイル通信」
「Dream通信」「SAJ Farm通信」の発信
- アースデイにおけるブース出展スペースの提供

社員向けSAJ・カンボジア視察ツアーの開始

2011年6月、ワタミグループは、グループ社員を対象とした「社員向けSAJ・カンボジア視察ツアー」を開始しました。カンボジアを訪問し、国内の現状や過去の歴史に触れるとともに、SAJが運営する孤児院や農場、建設した学校での学習の様子、朝給食の様子を見学します。SAJの支援活動に対する理解を深めてもらい、その社員が自らの言葉でSAJの活動を伝えていくことによって関心の輪を広げることが目的です。今後も1年に2回、継続してこのツアーを開催していきます。



孤児院「夢追う子どもたちの家」の見学



孤児院「夢追う子どもたちの家」での食事

地域清掃・美化活動への参加

WFSは、毎日の外食店舗周辺の清掃に加え、各地で開催される定期的な清掃にも参加しています。

WTMDでは、「地域に根ざした活動を行う」ことを目的として、研修が行われる際に、定期的にワタミ本社ビルの前やワタミ手づくり厨房付近の清掃を行っています。

ワタミファームでは、道路や圃場と隣接する場所など、地域の方々との共有スペースの除草作業などに積極的に参加させていただいています。

「エコフェスタ ワンダーランド」への参加

ワタミグループは毎年、子どもたちが環境について考えるきっかけづくりとして大田区の小学校で開催される「エコフェスタワンダーランド」に参加しています。2011年2月は、有機食材を使ったおでんを提供させていただいた他、有機野菜に関するクイズブースを出展しました。



エコフェスタに出展したクイズブース

環境とともに

ワタミグループは、環境宣言「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」を実現するため、環境(エコロジー)と経済(エコノミー)の両立(W-ECO)を目指し、環境活動を実践しています。



2010年5月には、過去の取り組みの評価と今後への期待から、環境省より「エコ・ファースト企業」の認定を受けました。

ワタミグループのこれまでの主な環境活動

ワタミグループでは、1999年の外食産業初のISO14001取得以来、環境宣言「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」のもと、様々な環境保全活動を行ってきました。

環境宣言を実現させるための長期的な目標として、2009年10月「W-ECOビジョン2020」(2020年グループ環境負荷(CO₂)を50%削減(2008年度比、売上高当り))を掲げました。

「エコ・ファースト企業」に認定されたことから、2012年までの社会に対する必達目標として、「エコ・ファーストの約束」を宣言しました。

■環境活動年表

- 1999年 外食産業初ISO14001認証取得
「ワタミ環境宣言」を発表
- 2002年 リサイクルセンター設立 首都圏リサイクル開始
- 2003年 首都圏200店舗に生ゴミ処理機導入
- 2004年 WEM(ワタミエネルギー・マネジメント)システム導入
- 2006年 森づくり活動の開始
- 2007年 NPO法人「Return to Forest Life」設立
- 2008年 「環境宣言2008」策定
「W-ECOビジョン2013」策定
- 2009年 LED照明を導入した外食店舗がオープン
日本酒ビンリユースの開始(首都圏400店)
「W-ECOビジョン2020」策定
- 2010年 環境省「エコ・ファースト企業」認定
社員の環境負荷削減のため「エコ夢カード」発行
環境省・農林水産省認定「リサイクルループ」をスタート
環境家計簿入力サイト「エコ夢サイト」を開設
- 2011年 環境配慮型介護施設がオープン
「夏の節電についてのエコ・ファーストの約束」を宣言
- 2012年 風力発電事業への参入



ワタミグループが取り組んでいる環境活動

ワタミグループは、各事業ごとに様々な環境活動を実施しています。今後も、これらの活動のさらなる推進を行い、「エコ・ファーストの約束」、「W-ECOビジョン2020」の達成を目指していきます。

■「エコ・ファーストの約束」の具体的な活動内容と取り組み状況(○が活動内容に取り組んでいる事業)

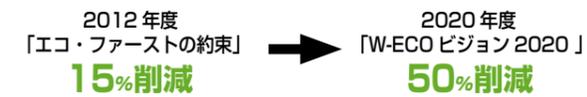
テーマ	活動内容	参照	外食事業	介護事業	宅食事業	MD事業	農業	環境事業
エコ・ファーストテーマ1 事業活動でのCO ₂ 削減	新規外食店舗・介護施設へのLED照明の導入	P46 ①	○	○				
	環境配慮型介護施設建設	P46 ②		○				
	外食店舗・介護施設でのムダ電気削減	P46 ③	○	○				
	ロス率削減		○			○		
エコ・ファーストテーマ2 環境改善事業の強化	ISO14001の強化		○	○	○	○	○	○
	リサイクルループの構築	P46 ④	○				○	○
	日本酒空きビンのリユース	P46 ④	○					○
エコ・ファーストテーマ3 社員行動でのCO ₂ 削減	有機野菜の圃場の拡大						○	
	エコキャップ活動		○	○	○	○	○	○
	「エコ夢サイト」への記入	P47 ⑤	○	○	○	○	○	○
エコ・ファーストテーマ4 環境保全活動の応援	本社ビルキャノピースイッチ導入	P47 ⑥	○	○	○	○	○	○
	本社ビルでの紙削減の取り組み	P47 ⑥	○	○	○	○	○	○
	「ワタミの森」の活動を支援		○	○	○	○	○	○
	介護施設で間伐材を使用	P47 ⑦		○				
エコ・ファーストテーマ4 環境保全活動の応援	「ライトダウンキャンペーン2012」への参加	P47 ⑧	○	○	○	○	○	○
	「アースデイ2012」への参加	P47 ⑧				○	○	
	カーボンオフセットカクテルの販売	P47 ⑨	○					

CO₂排出量を19%削減

ワタミグループは、2011年度、CO₂排出量11%削減(2008年度比、売上高当り)の目標に対し、各事業施設において、ムダな照明やエアコンの電源をオフにするなどの取り組みを行い、19%の削減を達成することができました。

「エコ・ファーストの約束」では、この排出量を15%削減することを約束しており、「W-ECOビジョン2020」では50%削減するという長期的な方針を掲げています。

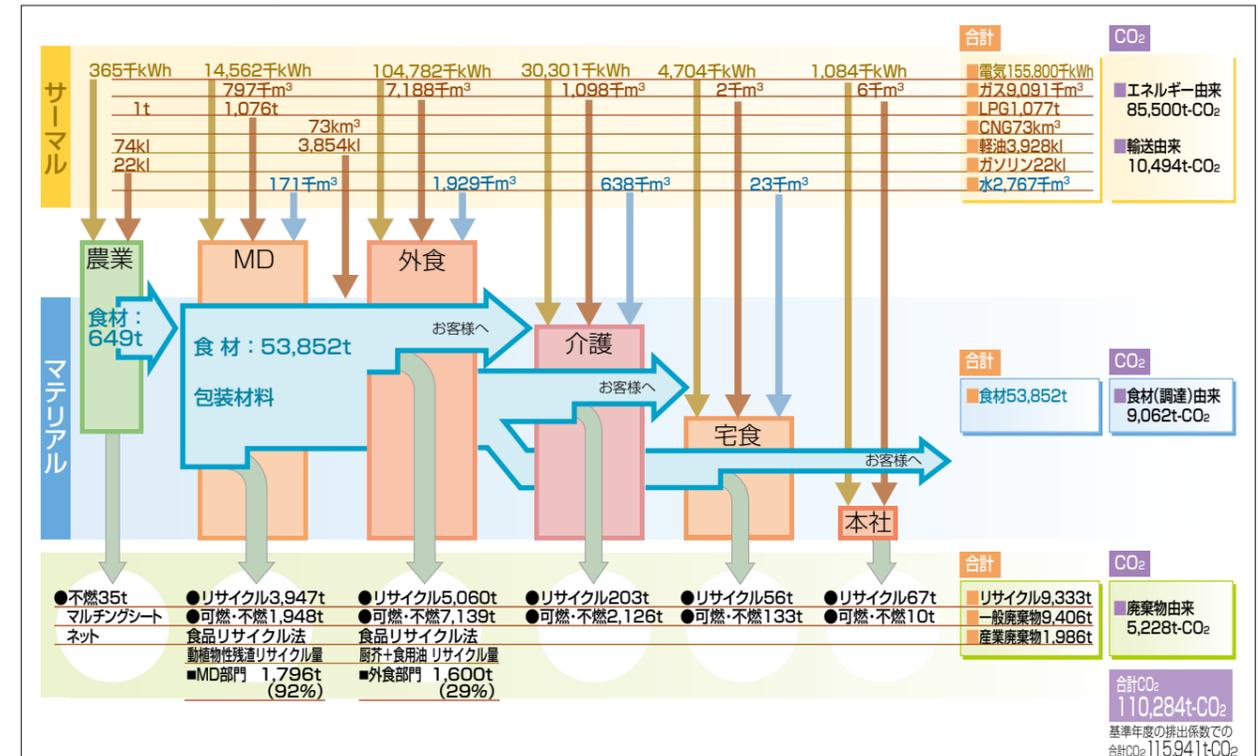
グループCO₂排出量削減目標



ワタミグループの2011年度の環境負荷

ワタミグループ全事業(外食、介護、宅食、MD、農業、環境)の2011年度の環境負荷は下図の通りです。

■ワタミ マテリアル&サーマル・フロー



【注意書き】①CO₂の排出係数は次の通り設定しています。(毎年度変更となる数値です。努力値を見るために、基準年度である2008年度の排出係数を用いて算出した数値も掲載しています。) ■2011年度算出係数/電気量: 0.385 (kg-CO₂/kWh)、都市ガス: 2.28(kg-CO₂/m³)、水: 0.58 (kg-CO₂/m³)、一般廃棄物: 0.0175 (kg-CO₂/kg)、産業廃棄物: 2.55 (kg-CO₂/kg) (共通) ■2008年度算出係数・電気量: 0.421 (kg-CO₂/kWh)、都市ガス: 2.08(kg-CO₂/m³)、水: 同上 ②表記の数値は、年間総計を示しています。(2011年4月1日～2012年3月31日) ③外食店舗における投入量(INPUT)は、以下の方法により算出しています。■エネルギー由来/●電気: WEM導入店舗(236)の平均単価(円/kWh)を用いて、経理支払い金額(円)を除いて算出しています。●ガス: 329店舗の検針数値(m³/店舗)を用いて、店舗数を乗じて算出しています。●水道: 請求書から399店舗の平均使用量(m³/店舗)を用いて、店舗数を乗じて算出しています。■輸送由来/対象範囲はワタミファーム→MD、MD→外食店舗・介護施設・宅食営業所としています。■食材(調達)由来/主たる食材である肉類の国内外比率を代表数値として用い、全使用食材の総量を按分した数値に移動距離を乗じて算出しています。④外食店舗における排出量(OUTPUT)は、2010年度の定期計量数値の平均を使用しています。⑤介護施設における排出量は、2011年度の平均排出量(kg/人)を用いて、ご入居者様数を乗じて算出しています。

環境とともに

エコファースト
テーマ1 事業活動でのCO₂削減

外食店舗でのLED照明利用拡大 ①

ワタミグループは、Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's®」と語りい処「坐・和民」の国内全店舗において、LED照明を導入しています。これにより、従来照明による電気使用量の約90%を削減、LED導入店舗全電気使用量の6%に相当する1,802t-CO₂の削減を達成することができました。

現在は、その他の業態でも新規出店や改装の機会にLED照明を導入しています。

環境配慮型介護施設がオープン ②

ワタミの介護は、2011年9月、ワタミの介護初の環境配慮型介護施設「レストヴィラ弁天町」を大阪市に開設しました。CO₂削減のため、屋上には庭園、農園、太陽光パネルを設置、内装にはワタミの森の間伐材を利用し、リビングダイニングにはペレットストーブを設置しました。また、電気自動車も導入しました。



屋上庭園



太陽光パネル

エネルギーマネジメントシステムの活用 ③

ワタミグループ外食店舗では、使用電力を一元管理するモニター機器（いつ・どこで・どのくらい電気が使われているのかを計測する電力監視システム）を導入し、営業時間外・営業時間中のムダ電気の削減に活用しています。2012年3月末現在、236店舗に導入しています。



ワタミグループは応援します。
「Return to Forest Life」の支援

ワタミグループは、NPO法人 Return to Forest Life を支援しています。現在、ほぼ全社員が会員となり、活動を強化しています。
▶ 活動内容は、P50～51をご覧ください。

ワタミグループの支援内容

- 環境マネジメントグループによる事務局業務のサポート
- 株主総会（経営説明会）におけるブース出展スペースの提供
- 全体会議および研修会における取り組みの説明機会の提供
- 活動報告月刊誌「RFL通信」の発信
- 外食店舗にて対象となるカクテルの販売収益の一部を寄附…2011年度寄附金額 2,331千円

外食店舗での節電の取り組み ③

ワタミグループ外食店舗では、2011年度より、CO₂排出量を削減するために「環境改善項目」を設定し、節電に取り組んでいます。

環境改善項目

- エアコンフィルターの月1回の清掃
- 厨房の給排気フィルターの月1回の清掃
- 使用しないジョッキクーラーの電源OFF
- 不要な冷蔵庫の使用停止
- 営業時間外の空調の電源OFF
- 営業時間中の空調温度をお客様の快適な温度に調節
- 営業時間外の作業エリア以外の消灯
- プライベートルームの不使用時の消灯
- 給湯器の温度調整（夏場36度、冬場38度）
- 冷機器のフィルターの月1回の清掃

これらを徹底させるため、各外食店舗には「改善マニュアルビデオ」を用意し、すべての従業員に取り組み内容の浸透を図りました。2011年度は、電気使用量2008年度比11%削減という目標に対し、18.4%の削減を達成することができました。

2012年4月からは、専任者が外食店舗を巡回し、店舗での取り組みを支援・指導しています。これらの取り組みを通し、2012年度は、電気使用量2008年度比20%削減を目指します。

エコファースト
テーマ2 環境改善事業の強化

ワタミエコロジーを推進役とした取り組み ④

ワタミグループは2009年10月より、ワタミエコロジーを中心として、ビンの廃棄量抑制のため、日本酒の空ビンリユースに取り組んでいます。また、2010年6月より、外食店舗から排出された生ゴミをリサイクルループで堆肥化し、ワタミファームの土壌を潤し、有機野菜となって戻ってくる循環型社会の取り組みを本格的に稼働させています。

▶ 詳細は、P30～31をご覧ください。



エコファースト
テーマ3 社員行動でのCO₂削減

「エコ夢サイト」を活用したCO₂削減 ⑤

「W-ECOビジョン 2020」で設定した、社員の生活のCO₂排出量を2020年度までに30%削減（2010年度比（※））するという具体的な目標達成のため、2010年度に「エコ夢カード」を全社員に配布、さらに同年度、より効率的に社員のCO₂排出量を把握するための環境家計簿「エコ夢サイト」を開発し、グループ全社員に、日々の生活でのCO₂排出量（電気、ガス、ガソリン）を毎月入力するよう呼びかけています。2012年3月末現在、登録率は100%、入力率は約83%となっています。

この取り組みにより、一人ひとりが具体的に活動目標を設定できることを目指しています。

（※）エコ・ファーストの約束では、事業由来のCO₂削減の目標に合わせて、2008年度比としていましたが、エコ夢カードで一人ひとりのCO₂を把握し始めた、2010年度を基準年度と変更します。



エコ夢サイト

エコ・ファースト表彰

ワタミグループは、毎年3月に行われる全体会議にて「エコ・ファースト表彰」を行っています。これは、他の模範となるような取り組みを行った外食店舗および介護施設と、「エコ夢サイト」に入力されたデータをもとに社員を表彰する制度です。

2011年度は、電気使用量2010年度比34%削減を達成した、居食屋「和民」大船モノレール店、電気使用量2010年度比20%削減を達成したレストヴィラ古淵、ワタミグループの一人あたり平均CO₂排出量に対して、70%の削減を達成した社員を表彰しました。

本社での取り組み ⑥

節電

ワタミグループ本社ビルでは、2010年6月より、全館の蛍光灯にキャノピースイッチを設置しています。また、夏場の室温28℃の厳守、19時以降のエアコンの使用中止、エレベーター使用の制限、クールビズの徹底、待機電力の削減、夜間・休日の不使用電気削減などを行い、電力、電気使用量の削減に取り組んでいます。2011年度は、前年使用量に対して、24.1%の削減を達成できました。

紙削減

ワタミグループ本社ビルでは、複合機を削減するなど、紙使用量の削減に取り組んでいます。

2011年度は、2008年度比30%減となりました。2012年度は、複合機にIC認証カードを導入し、ムダな印刷を防げるよう取り組んでいく計画です。

エコファースト
テーマ4 環境保全活動の応援

ワタミの森の間伐材の活用 ⑦

ワタミの介護施設では、内装の建材として、積極的にワタミの森の間伐材を活用しています。また、レストヴィラ弁天町、レストヴィラ元住吉では、ペレットストーブを導入し、燃料となるペレット材として、ワタミの森の間伐材を活用しています。



ペレットストーブ

環境イベントへの参加 ⑧

ワタミグループは、2007年以降、環境省主催の「ライトダウンキャンペーン」に継続して参加しています。2012年度は、夏至の6月21日と、七夕の7月7日の両日、20時から22時に亘り、外食店舗の看板（一部、消灯ができない店舗を除く）と、介護施設の外灯看板（外灯看板がない場合は、駐車場・玄関などの照明）を消灯しました。

また、「アースデイ」にも毎年継続的に参加しています。2012年度は4月21日、22日の2日間に亘り、ワタミファームや契約生産者様が栽培された有機野菜や、特別栽培農産物などを販売しました。



ライトダウンキャンペーンに際し、作成したポスター

「カーボンオフセット付きカクテル」の販売 ⑨

WFSは、2009年9月より「カーボンオフセット付きカクテル（※）」を販売しています。「カーボンオフセット付きカクテル」は、販売数に応じて「カーボンオフセット」やNPO法人への寄附をさせていただくカクテルです。このカクテルの売上げの一部により国内のCO₂削減プロジェクトを支援することになります。

2011年度は、160,766杯を販売し、160tのカーボンオフセットを実施しました。

販売収益の一部は、NPO法人 Return to Forest Lifeに寄附しています。

※ 2012年10月をもちまして、販売を終了いたします。

公益財団法人 School Aid Japan

SAJは、ワタミグループの社員の発案から設立された団体です(NPO法人として2001年に設立)。スタート時点ではワタミグループからの支援が中心でしたが、今では一般の方をはじめ、多くの企業様からの支援により運営されている公益財団法人です。

SAJでは、皆様からいただいた寄附金・会費は「全額、現地の支援費に使う」ことを原則として活動しています。また、何の支援に使われたのか、その用途を明確にしており、「現地の現実が変わったことを確認できる支援」を行っています。



公益財団法人
School Aid Japan
事務局長
住田 平吉

公益財団法人 School Aid Japan 2011年度の活動および2012年度計画について

「公益財団法人 School Aid Japan」の2011年度事業は、全ての事業において順調に活動が終了しました。行った活動は以下の通りです。(1) 学校建設：カンボジア6州に15校(小学校8・中学校7)を建設しました。(2) ふれあいサポートプラン：制服と文房具をコンポンチュナン州の14校926人に支援しました。(サポーター93人を募集し、プロフィールと写真・手紙の交換をしました。)(3) 食糧支援：【給食支援】コンポンチュナン州とポーサット州のSAJ建設小学校のうち28校、9,068人に実施しました。【お米支援】10Kg/月のお米をコンポンチュナン州14校695人に支援しました。(4) 孤児院運営：孤児77人が在園、高校生は3人になりました。「勤労・勉勵・思いやり」を徹底しています。(5) 就労支援：水の抜けない水田造りとレモングラスの試験栽培の実施、鶏の飼育を行いました。◎2012年度活動計画は、以下の通りです。

(1) 学校建設は15校を建設し、内閣府の認定を得て幼稚園舎の建設を始めます。(5) 就労支援(農業)は水稲の二期作を行い、レモングラスを栽培します。また、内閣府の認定を得てから、作物の販売を始めます。その他の事業は以下のことを計画しています。(2) ふれあいサポートプラン：10月の新学期に人数が決定します。ポーサット州では試験的に支援を実施します。(3) 食糧支援：お米支援をポーサット州で試験的に実施します。(4) 孤児院運営：高校1年生が8人誕生し、高校生は11人になります。中学生以上には「農業研修」を1週間実施します。

活動目的

「一人でも多くの子どもたちに、人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する」
子どもたちの夢を育み、健全な成長を促進すると共に、将来、自身に備わった素晴らしい能力に気づき、それを伸ばし、そして、社会に貢献できる子どもたちを育成する事を目標にして、この活動を行います。

活動方針

- 「School Aid Japan」教育支援の3つの方針
1. 学校教育を充実させる
 2. 地域に根ざした支援
 3. 点から面への支援の広がりを目指す

学校建設支援事業

開発途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。SAJでは、カンボジアなどの海外の国において、学校の無い地域には小学校や中学校を建設し、倒壊の危険にある校舎や老朽化した校舎の再建築を行っています。

2012年3月末現在、SAJが建設した学校は、カンボジア・ネパール合わせて累計156校となりました。2012年度はカンボジアで15校の建設を予定しています。

就学支援事業(ふれあいサポートプラン)

開発途上国においては、貧しさのために未就学の子どもや、入学しても途中退学せざるを得ない子どもたちが多くいます。SAJでは、貧しい家庭の子どもたちへの、就学支援(制服1着・ノート・ボールペンなどの文房具)をすることで、学校で学習が続けられるように支援しています。2011年度は、SAJが建設した学校14校926名の子どもたちに制服、ボールペン、ノートを支援しました。

就学支援は、これまではコンポンチュナン州だけで行っていましたが、今後はポーサット州に拡大していくことを計画しており、2012年10月より、ポーサット州コムオー小学校で、試験的に就学支援を行う予定です。



カンボジアでSAJが建設した新校舎

贈呈用のノートとボールペン

食料支援事業

開発途上国では、貧しさのために1日1回の食事がとれない子どもたちや、食費を稼ぐために、学校に入学せずに働いていたり学校を休んで働いている子どもたちもいます。そのような子どもたちに、学校での学習が続けられるよう食料支援をしています。

2011年度は、就学支援対象者のうち(WFPから支援を受けられない子ども)、14校695人に月10Kgのお米を支給しました。また、WFPの協力を得て朝給食を提供しており、2011年度は28校9,068人に提供しました。さらに、お米の保管方法や計量の仕方、帳簿のつけ方、盗難防止策などについても指導をしています。

お米支援は、今後はポーサット州に拡大していくことを計画しており、就学支援事業と同様、ポーサット州コムオー小学校で、試験的に支援を行う予定です。



お米支援

給食支援

孤児院建設・運営事業

SAJは、2008年カンボジア・ポーサット州に、SAJ初の孤児院「夢追う子どもたちの家」を開園しました。「80名の子どもたちの幸せのためだけに運営する」を方針とし、子どもたちが勉強する学習室や、働く場所として畑・果樹園などをつくり、しっかりと生活習慣とあるべき人格を身につけ、自立するまでのサポートを行っています。

2012年5月現在、77名の子どもたちが生活しています。



孤児院「夢追う子どもたちの家」全景

食事の様子

就労支援事業(農業)

SAJは、2009年にカンボジアの農業技術の向上と雇用の拡大、生活の安定を目指し、12.6haの農地を購入し、2010年より本格的に農業を開始しました。

SAJの農場では、化学肥料を使わず、現地で手に入る肥料を使って有機農業を行う「完全循環型有機農業」を目指しています。

2011年度は、「1haの循環型有機農業モデルの完成を目指した」水田45aを、水の抜けない水田にし、15aから253kgの米を収穫しました。また、畑地25aを造成し、野菜の試験栽培を行った結果、レモングラスが良く育つことが分かりました。

今後は、米の二期作を本格的に行うとともに、レモングラスの栽培に特化していきます。



田植えの様子

災害支援活動

SAJは、東日本大震災を受け、2011年3月より、災害支援活動を行いました。

これまでに、災害募金、宮城県への物資支援、岩手県陸前高田市へのボランティアの募集と派遣、陸前高田市復興街づくりイベントの後援、経営勉強会の開催などを行いました。

今後は、宮城県、岩手県(陸前高田市)から要請などがあれば、物資支援とボランティアの募集と派遣を再開することもあります。

SAJが行った災害支援活動に関しては、P14~15をご覧ください。

TOPICS

バングラデシュでの活動を開始

ワタミグループが支援するSAJと、渡邊美樹が理事長を務める学校法人都文館夢学園は、バングラデシュのNGO団体と協同して、現地に教育支援に入ります。カンボジアの教育支援と同様に、まず教育環境の向上を目指して、小学校校舎の建て替えをします。中学校の校舎も建設して、小・中一貫教育を行う予定です。そのために、SAJでは内閣府公益認定等委員会に学校の運営認定を申請し、認定許可が取れ次第、小・中学校の運営を始めます。

2012年4月には、バングラデシュに調査に行き、現地のNGO法や土地法などの法律を調べ、JICAや日本大使館、現地のNGO関係の役所を訪問しました。

2012年度前期は見学した小学校3校の建て替えをします。後期には4校の建て替えを予定しています。

NPO法人 Return to Forest Life

2006年より社員の有志で行っていた森を再生させる活動「森づくり」を、ワタミグループとして積極的に稼働させるため、2007年10月、NPO法人 Return to Forest Lifeが設立されました。現在は、ワタミグループのほぼ全社員がRFLの会員になるなど、多くの会員からの支援により、「美しい地球を子どもたちに残すため、ひとつでも多くの森を再生させたい」という思いのもと、千葉県山武市にある「ワタミの森」(面積9ha)を運営、管理しています。



NPO法人
Return to Forest Life
事務局長
小出 浩平

活動の基盤づくりから、活動拡大の一步を踏み出します。

2011年度、私たちは森林保全活動のNPO法人としての基盤づくりに力を入れました。専任事務局の配置、グループ全社員の会員参加と財務の安定化、森林調査に基づく保全活動、ペレットストーブ導入(材の有効活用)、定期的な環境教育の実施(千葉、静岡、大阪)などです。

2012年度は、一層の基盤強化と共に、活動目的(一つでも多くの森を再生させることに貢献)の実現を目指し、関与する森林の拡大に力を入れます。合わせて、グループ全社員への環境教育の場の提供も重要な活動と位置づけております。とは言うものの、森林に関するスキルが不足していますので、森林の専門家や各地域の皆様を支えられて活動していくことになり、その過程でスキルアップを図りたいと考えております。

水はぐみ、豊かな土をつくる森は全ての命の源です。この森を再生させることこそ、「美しい地球を美しいままに子どもたちに残していく」ことにつながると信じ、一歩ずつ着実に活動を続けてまいります。

「Return to Forest Life」設立趣意

人工林に手が入らない状態で放置されると、土砂の流出や水資源涵養機能の低下をもたらす、災害にも弱い森林になる恐れも出てくる。また、きちんと管理され生態系が維持された森は、きれいな水をつくり、災害に強い土壌をつくり、そして光合成を行うことによって二酸化炭素を吸収し酸素を作り出して、私たちが住んでいる地上を住みやすい環境に維持してくれている。

私たちの森づくりでは、このように荒廃している山林を適切な管理を施すことにより少しずつ元の姿に戻し、たくさんの生き物達を森に呼び戻すことを主な目的とする。多くの生き物にとって森はふるさとであり、そのふるさとである森を次世代の子どもたちに健全なカタチで引き継いでいきたいと考える。

活動目的

「美しい地球を子どもたちに残すため、
一つでも多くの森を再生することに貢献する」

活動方針

1. 不健全な森林を再生させる
2. 森林の資源の有効活用
3. 環境教育への貢献

不健全な森林を再生させる

日本は国土面積の約3分の2が森林であり、その約4割が杉・ヒノキなどの人工林であると言われています。その人工林のうちさらに約4割が人の手が入らず不健全な状態(全森林の約16%、約400万ha=九州の面積)にあります。この不健全な人工林を適正に管理(間伐、下草刈り、枝打ち、植樹など)することによって、多様な生き物たちが存在する里山のような自然林、あるいは健全な人工林に再生させる活動を行います。

RFLは2011年度、ワタミの森において517本を間伐し、その空間に新しい命として1,525本を植樹、森に日差しが入るよう改善しました。



間伐前の暗い森



間伐後の明るい森

森林資源の有効活用

森林の再生活動により倒木される間伐材は、活用せずに放置すると腐敗してCO₂を排出するだけでなく、土砂崩れなどの災害の原因となります。この倒木された間伐材を適正に活用することによって、森林再生活動を促進させ、国産材の自給率向上、海外森林の違法伐採の防止に貢献し、その結果として、関係する地域産業に貢献することになると考えています。

- バイオマスプラスチック箸
間伐材の樹皮と端材55%とポリプロピレン(樹脂)45%を混合してつくりました。
- 公益財団法人SAJの募金箱に活用(2011年6月より)
福祉作業所で製作していただいています。
- 介護施設での活用
内装材料やペレットストーブの燃料として使用されています。
- 株式会社カウネット様による備品販売
ワタミの森の間伐材から店舗用備品を製作し、販売していただいています。

環境教育への貢献

環境活動、地球資源(森林)保全への貢献において、もっとも大切なことは、環境負荷を出す人の行動が変わることです。RFLは、ワタミグループ社員を含め、すべての人に対する環境教育の場の提供に貢献していきます。

2011年度は、1,582名の方に環境教育に参加していただきました。また、2011年度は、ワタミ手づくり厨房周辺への植樹作業や、地域のNPO法人にご協力いただき、ワタミの森だけでなく、大阪府能勢町、静岡県掛川市での環境教育も実施しました。

参加した方からは「森と自分が繋がった気持ちになる」「30年先まで考えるきっかけになる」などの感想をいただき、何度も参加して下さる方もいらっしゃいます。

2012年度もより多くの方に参加していただきたいと考えています。

RFLが行っている環境教育

- 安全講習・フィールド(森の様子)案内
- 1 安全第一で活動を行えるように、間伐作業の注意点などを伝える安全講習を作業前に行います。その後、森林の再生活動への理解を深めるために、森の中を歩きながら、手入れが進んでいる様子や病気の木を実際に見ていただいています。
- 間伐作業
- 2 森の中に日差しが入るよう意識しながら、病気の木から間伐を進めています。間伐後、1本の杉を運べる大きさに切る「玉切り」を行います。
- 植樹作業
- 3 光があたる場所に新しい命(苗木)を植樹しています。苗木は日本に古来からあるシイ・カシ・タブ類で種類を混ぜて密植しています。どんぐりから約2年かけて育てられた苗木の根ははりが強く、密植させることで互いに競争し育つため、通常よりも早く森づくりができるといわれています。

2011年度 ワタミの森での活動

□2011年8月 森林資源調査の実施

森林再生を手掛ける株式会社森林再生システム様の指導のもと、目標とする森林の形や施工方針を決定するための調査を行い、森林の状態を把握。2011年度は作業道(車両が材を搬出するための道)と土場(材の集積場所)の整備、林内の残材搬出を中心に行うことを決めました。



森林資源調査の様子

□2011年9月~11月 作業道の整備

会員、ボランティアの方と一緒に、森の中に1本の作業道をつくりました(幅2m、長さ150m)。下草を刈り、間伐をし、タイヤが沈まないように杉の枝を敷き詰めました。

□2011年11月 土場の設置

地元の業者様にご協力いただき、森の入り口に土場を完成させました。



森の入口に完成した土場

□2012年1月 林内の残材を搬出

2006年に活動を開始してから、林内に放置せざるを得なかった残材、約100tを搬出しました。ただ腐らせるのではなく搬出することで、状態の良い材は建材に活用することができます。状態の悪い材はチップやペレット、堆肥への活用を検討しており、現在試験中です。



林内の残材を搬出の様子

RFL ホームページ…<http://www.returntoforestlife.or.jp/>

NPO法人 みんなの夢をかなえる会

みんなの夢をかなえる会は、2010年11月に特定非営利活動法人の認証を取得しました。本来、夢をもつことは、平等に与えられた人間の権利です。しかし、その権利が何らかの理由で持てない人々が世界にはたくさん存在します。すべての人々が平等に夢をもつことを与えられる社会を創造することを目指します。



NPO法人
みんなの夢をかなえる会
専務理事/事務局長
中川 直洋

夢溢れ“ありがとう”が飛び交う社会の実現に向けて

「NPO法人 みんなの夢をかなえる会」は、みんなの夢でよりよい社会を創造することにあります。「未来の名刺」の普及活動、「みんなの夢シンポジウム」、「みんなの夢アワード」の開催が主な活動内容です。5年先の夢を名乗って、未来の名刺を作ろうというコンセプトのもと、若者を中心に「未来の名刺」には現在、1,500名以上が登録しています。また、みんなの夢と社会活動を考える「みんなの夢シンポジウム」は、全国各地で開催し、7,242名の皆さまが参加しました。

2010年に始まったすてきな夢に贈られる「みんなの夢 AWARD」は、みんなをワクワクさせ、みんなが夢をもちたくなるをコンセプトに開催され、2011年は中野サンプラザにて2,300名が参加しました。優勝者は、「日本の農業を変える復興仕掛け人」佐藤博文さんと、ワタミグループからも2,000万円の支援を決定し、本格的に活動しております。3回目となる今回は会場を日本武道館に移し、観衆8,000人、協賛企業50社の前で夢のプレゼンテーションを行うイベントとなります。「あなたの夢を、企業がみんなが応援する。募集日本一の夢」をキャッチに展開します。特定の条件をより高いレベルで満たした者に、優勝と共に夢の支援金などの副賞が与えられるだけでなく、優勝者以外にも様々な支援が得られるチャンスのあるイベントです。

みんなの夢 AWARD3の目的は、①若者を中心とした参加者の夢実現へ向けた「キッカケの場所」の創出、②若者と企業人、両者にとって次の社会の幕を開ける起爆剤としての役割、③社会の変化、若者に対する応援を求める企業姿勢を提示する場の創出にあります。

みんなの夢 AWARD3を通じて、よりよい社会を作っていきたいと思えます。

「みんなの夢をかなえる会」設立趣意

人が生きていくということは、周囲の人々や、動植物を含めた地球上のあらゆる環境に、日々支えられていることを意味しています。それならば、それに合う責任を果たすため、自分の存在をよりよくしたい、自分の価値を高めたいと思うことは当然のことです。人が生きていくなかで、どれだけ多くの人の幸せにかかわれたか、それこそが自分の存在を高めることであり、その指標が「存在対効果」です。

人生の目的は、この「存在対効果」を高めることにあります。私たちは考えます。存在対効果を高めるためには、「己の人間性を向上させること」が必要です。人間性を向上させることは、社会で生活するすべての人に共通する使命であると私たちは信じています。

豊かな国に生まれようと、貧しい国に生まれようと、人にはそれぞれ生まれてきた意味があるのです。人は遺伝によって与えられた「それぞれの美しい資質」を磨き高めるために生まれてきたと私たちは考えます。

人間性を高め、持って生まれた美しい資質を高めるために大切なこと。それが、夢を持ち、その夢をかなえようと懸命に努力するプロセスであると、私たちは考えます。

私たちは「一人でも多くの人々に“夢”の素晴らしさを認識してもらい、“夢”をもち、“夢”を追いかけるためのきっかけを提供すること」を目的とした特定非営利活動法人「みんなの夢をかなえる会」を設立し、啓蒙・教育・支援活動を行います。

活動目的

「みんなの夢をかなえる会」は、「多くの若者が、自分と社会の未来に“責任”をもつ“夢”を実現できる社会にしたい」という考えのもと、人・地域・日本の活性化を図ることをミッションに掲げています。「夢をかなえるきっかけ」を世の中に広く訴求し、「夢の途中」の人々を応援します。

活動方針

1. みんなの夢シンポジウム
(みんなの夢と社会貢献を考える)
2. 未来の名刺プロジェクト
(5年先の自分の名刺で夢の発信)
3. みんなの夢アワード
(夢を語り、夢を実現させる活動)

「みんなの夢シンポジウム」

「みんなの夢シンポジウム」は、「夢溢れ、ありがとうが飛びかう社会」を目指し、「みんなの夢」と「社会貢献」を考えるシンポジウムです。「渡邊美樹と考える『みんなの夢』」をテーマに、2011年度は、東京を中心に全国7カ所にて7,242名の方々にご参加いただきました。2012年度は、6月30日の両国国技館を皮切りに、全国で8回に亘り開催します。参加者の皆さんと夢の大切さを共有し、みなさんと一緒に元気になれるようなシンポジウムを目指しています。



「未来の名刺プロジェクト」

「未来の名刺プロジェクト」は、夢の実現に役立つ場となること、まだ夢が見つからない人が夢を見つけるためのヒントを得られる場となることを目的として生まれました。

WEBサイト「未来の名刺」では、「5年先の夢を名乗って、未来の名刺を作ろう」というコンセプトのもと、すてきな夢を持つ方々にその夢を投稿していただけます。(5年先の肩書きで名刺を作成し、5年先への道のりを作成していただけます。)

投稿された夢は「未来の名刺」としてWEBサイトに掲載されます。「未来の名刺」に掲載されると、「みんなの夢アワード」にエントリーすることができます。

未来の名刺ホームページ <http://www.miraimeishi.net/>

□「未来の名刺講座」の開催

みんなの夢をかなえる会では、「未来の名刺講座」をあらゆるところで開催しています。東京都渋谷地区の小学校では、6年生の授業として「未来の名刺」をテーマに、渡邊美樹の著書「こうすれば社長になれる」(小学館)を教材として開催しています。また、大学でもゼミ単位で開催しています。



「みんなの夢アワード」

「みんなの夢アワード」とは、みんなをワクワクさせ、みんなに夢を与えるすてきな夢に贈られるアワードです。みなさんの夢をWEBサイトで募集し審査、そして、「みんなの夢アワード」で表彰します。

審査の基準は①みんなをワクワクさせ、世界をちょっと良くする夢であること ②夢を具体的に描き、かなえるための計画をたてていること ③毎日、夢に向かって少しずつでも前進していること です。

アワード受賞者には、渡邊美樹および「みんなの夢をかなえる会」が夢の実現に向けて積極的にサポートします。

「みんなの夢アワード2012」のご報告

2012年1月、みんなの夢をかなえる会は、2回目となる「みんなの夢アワード」を中野サンプラザにて開催しました。アワード受賞者への夢のサポートは、ワタミグループからの最大2,000万円の資金提供と、渡邊美樹による経営指導とし、当日は、多くのエントリー者の中から選考を勝ち抜いてきた6名が、約2,300名の来場者が見つめる中、自らの夢についてプレゼンテーションを行いました。来場者全員による投票と選考委員による選考の結果、きのこのSATO販売株式会社の佐藤博文さんがアワードを受賞しました。

◆きのこのSATO販売株式会社 佐藤 博文さん◆

「地元である陸前高田を『震災の街』ではなく、『きのこの街』と呼ばれる街にする」と語られた佐藤博文さん。佐藤さんは、被災地での生活の中でも、もう一度、自らのきのこ栽培を通して雇用を生み出す計画を進めています。それが延いては復興のためのモデルになると、夢を語りました。

◆梶ヶ山 健之さんが、特別賞を受賞◆

ハイレベルなプレゼンテーションに選考が難航したことから、当日、急遽「特別賞」が設定されました。こちらは、ワタミタクシヨクの社員である梶ヶ山さんが受賞しました。梶ヶ山さんは、アメリカの自然あふれる田舎に買った広大な土地に夢センターをつくり、世界中から子どもたちをよんで自分の夢を見つける、本物の留学体験をしてもらいたいと、自らの夢を語りました。



「みんなの夢 AWARD3」を開催

2013年1月30日、「みんなの夢 AWARD3」を、スポーツや文化・芸能の世界において夢の象徴である日本武道館で開催することを決定しました。

この「みんなの夢 AWARD3」では、夢と仕事をつなげ、人と社会をつなげ、夢イベントの最高のエンターテインメントを目指します。社会に、若者に、影響力のあるイベントに作り上げていくことを目指しています。

また、特別協賛企業、協賛企業として、業界を代表する企業50社を計画しています。発表内容に対して、協賛企業が直接支援を表明したり、参加学生が5年後の夢を記載した未来の名刺を使い、協賛企業トップや役員と名刺交換などができる場をつくることを計画しています。



CSR指標

各ステークホルダーに対する目標値と結果の一覧です。

主な取り組み	2011年度目標	2011年度結果	評価	2012年度目標	脚注		
安全・安心への取り組み	食材の安全・安心 特裁・有機野菜比率(注1)	42%	42.9%	○	42%	(注1) 対象はWFS、ワタミの介護の2社	
		残留農薬検査	毎月5つの食材につき、286の農薬成分について調査	毎月5つの食材につき、286の農薬成分について調査を実施	○	毎月5つの食材につき、286の農薬成分について調査を継続	
		原産地表示(注2)	「和民」「坐・和民」「和み亭」「わたみん家」において、季節の特撰料理の産地情報を公開	「和民」「坐・和民」「和み亭」「わたみん家」において、季節の特撰料理の産地情報を公開	○	「和民」「坐・和民」「和み亭」「わたみん家」において、季節の特撰料理の産地情報を公開	(注2) 対象はWFS
		適正表示(注2)	食品衛生法、JAS法、農産物表示法など関連法規の違反0件	違反0件	○	食品衛生法、JAS法、農産物表示法など関連法規の違反0件	
	外食店舗の安全・安心	「点字メニュー」設置(注2)	「和民」「坐・和民」「和み亭」で設置	○	「和民」「坐・和民」「和み亭」で設置		
		「英字メニュー」設置(注2)	「和民」「坐・和民」「和み亭」「わたみん家」「T.G.I. Fridays®」で設置	○	「和民」「坐・和民」「和み亭」「わたみん家」「T.G.I. Fridays®」で設置		
お客様満足を目指して	外食事業	アンケート満足度(国内)	年間80%以上	年間80.1%	○	年間80%以上	
		アンケート満足度(香港)(注3)	年間80%以上	年間82.4%(注4)	○	年間80%以上	(注3) 香港「和民」、香港「和亭」の合算数値
		アンケート満足度(深圳)	年間80%以上	年間83.5%(注4)	○	年間80%以上	
		アンケート満足度(上海)	年間80%以上	年間75.7%(注4)	×	年間80%以上	
		アンケート満足度(広州)	年間80%以上	年間78.9%(注4)	×	年間80%以上	
		アンケート満足度(台湾)	年間80%以上	年間63.2%(注4)	×	年間80%以上	
		アンケート満足度(シンガポール)	年間80%以上	年間67.6%(注4)	×	年間80%以上	
	介護事業	アンケート満足度	年間100%	年間85.7%	×	年間100%	
	宅食事業	お客様総合満足度	年間80%以上	年間65.2%	×	年間80%以上	
	MD事業	ワタミ手づくり厨房：品質・衛生管理体制	外食・介護品質クレーム年間38件以下	外食・介護品質クレーム年間24件	○	外食・介護品質クレーム年間32件以下	
			宅食品質クレーム10,000食につき0.2件	宅食品質クレーム10,000食につき0.19件	○	宅食品質クレーム10,000食につき0.18件	
		学校給食：アンケート満足度	年間80%以上	年間61.0%	×	年間65%以上	
保育園給食：検食評価		年間70%以上	年間74.6%	○	年間70%以上		
農業	有機農業の推進	JAS有機認証維持	JAS有機認証維持を継続	○	管理農地面積364ha		
	有機農産物の出荷拡大	反収35万円以上(注5)	反収31万円	×	反収35万円以上 (注5) 昨年度の報告書には、「反収45万円以上」と記載しましたが、事業方針の変更により、目標値を「反収35万円以上」に変更しました。		
株主様への取り組み	安定配当の維持	売上(連結)	135,000百万円	140,197百万円	○	16,000百万円	
		経常利益(連結)	6,720百万円	7,808百万円	○	8,200百万円	
		配当性向	20%を目安とする配当	29.2%	○	20%~30%を目安とする配当	
情報公開	適切な情報開示	毎月8日までに「近況報告」を開示	7日~10日に開示	×	毎月8日までに「近況報告」を開示		
お取引業者様との取り組み	お取引業者様との共存共栄を目指して	配送時の品質維持	外食配送時における品質クレーム26件以下(注6)	19件	○	外食配送時における品質クレーム18件以下	
			宅食配送における品質クレーム20件以下	34件	×	宅食配送における品質クレーム33件以下	
			納品時間の厳守99.0%以上	98.1%	×	納品時間に関する品質クレーム2,482件以下	
	配送時の定期監査	10拠点にて実施	10拠点にて実施	○	2012年度はWLI改善活動および、お取引業者様評価に統合		
	環境への取り組み説明	年2回以上実施する物流会議にて説明	2回説明実施	○	年2回以上実施する物流会議にて説明		
	物件を提供していただいているお取引業者様との協力	(注7)	(注7)	—	年1回の出店説明会の開催 (注7) 2011年度は、東日本大震災の影響により、出店説明会を一時見合わせました。		
	有機農業生産者との交流会を開催	年1回開催	年1回開催	○	年1回開催		
	ビジネスパートナーシップ(BPS)開催	年1回の総会実施、各事業でのエリア会、分科会の開催	総会と地域別の会議を各2回開催	○	施設管理におけるBPS会議 関東・関西において、継続的に実施 廃棄物管理におけるBPS会議、継続的に実施		
	公正な取引の強化	入札説明会開催	「わたみん家」「炭旬」以外の新店にて実施	JAPANESE DINING「和民」富士山にて実施	×	「わたみん家」「炭旬」以外の新店にて実施	
		購買方針の徹底	継続的に使用されている食材を年2回評価	継続的に使用されている主要食材を随時評価	○	グランドメニューで継続的に使用される食材の評価を実施	

主な取り組み	2011年度目標	2011年度結果	評価	2012年度目標	脚注		
従業員との取り組み	理念共有	カウンセリング実施率	100%	93% (注8)	×	100% (注8) 2012年3月の数値	
		課題レポートに対するフィードバック実施率	100%	90% (注8)	×	100% (注9) ビデオレターに関する感想を、従業員に記入してもらおうシート	
		「ビデオレター見たぞシート(注9)」の回収率	100%	98% (注8)	×	100%	
		FA(フリーエージェント)制度	書類選考合格者からの異動成立率目標50%	58%	○	書類選考合格者からの異動成立率目標50%	
		DFC(ダイレクトフランチャイズ)制度	132店舗の展開	108店舗の展開	×	125店舗の展開	
	環境職場改善	障がい者の雇用促進(注10)	1.8%以上	1.9%	○	介護単独での法定雇用率の達成 (注10) ワタミ(株)、WFS、ワタミの介護、WTMDの4社	
			労働安全衛生	安全衛生委員会を月1回開催	安全衛生委員会を月1回開催 ワタミ(株)の産業医を変更し、管理体制を強化	○	メンタルヘルスケアの取り組み強化
		雇用拡大	安定的な雇用の維持・拡大	1,124名を採用(注11)	○	安定的な雇用の維持・拡大 (注11) 新入社員数と中途入社社員数の合算	
		社会貢献活動	全社員ボランティア活動	参加率100%	88%	×	参加率100%
			ワタミふれあいカードでの寄付(国内)	国内外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用	利用総額293,603千円の1%相当となる4,345千円を寄付	○	国内外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用
全社員ボランティアへの取り組み	ワタミふれあいカードでの寄付(台湾)	台湾外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用	利用総額5,779,655NT\$の1%相当となる57,796NT\$(144千円)を寄付	○	台湾外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用		
	公益財団法人SAJへの支援	継続して支援を実施	外食店舗・介護施設・宅食営業所での募金箱設置…2,249千円 従業員からの寄付…37,461千円 ワタミグループによる法人会員寄付…720千円	○	継続して支援を実施		

テーマ	活動内容	2011年度目標	2011年度結果	評価	2012年度目標 (エコ・ファーストの約束)	2020年度目標 (W-ECOビジョン)	
環境(エコ)	エコ・ファーストテーマ1 事業活動での削減	グループCO2排出量削減	11%削減(2008年度比)	19%削減(2008年度比)	○	15%削減(2008年度比)	50%削減(2008年度比)
	エコ・ファーストテーマ2 環境改善事業の強化	ISO14001	全事業取得	全事業取得	○	全事業取得	全事業取得
		食品リサイクル率向上	37%	49%	○	50%	2013年ゼロエミッション400店舗
	エコ・ファーストテーマ3 社員行動での削減	社員の生活によるCO2排出量削減	5%削減(2008年度比)	5%削減(2010年度比)(注12)	—	10%削減(2010年度比)(注12)	30%削減(2010年度比)(注12)
環境貢献活動	エコ・ファーストテーマ4 環境保全活動の応援	ワタミの森の活動拡大	再生モジュール構築	森林調査に基づく林相毎の再生計画立案	○	森の総面積 50ha	森の総面積 5,000ha
	環境貢献活動	ライトダウンキャンペーン	キャンペーン参加	参加	○	参加	参加
環境貢献活動	NPO法人 RFLへの支援	ボランティア参加1,500名	ボランティア参加1,582名	○	ボランティア参加1,500名	—	

(注12)「エコ・ファーストの約束」では、事業由来のCO2削減の目標に合わせて、2008年度比としていましたが、エコカードで一人ひとりのCO2を把握し始めた、2010年度を基準とします。

編集後記

ワタミグループCSR報告書「ふれあい報告書2012」をお読みいただき、誠にありがとうございました。
今年度の報告書は、ワタミグループの思いや活動、「事業活動を通じて、事業活動を超えて「ありがとう」を集める」というワタミグループの姿勢を、幅広い読者の方にご紹介させていただくことを目的とし、グループが取り組む様々な活動を、網羅的に、分かりやすくお伝えできるよう心がけ、制作を進めて参りました。

ブランドコミットメントでもご紹介させていただきました通り、ワタミグループは、持続可能な「ありがとう」があふれる社会を目指し、さらなる「ありがとう」を集めてまいります。
なお、読者の皆様から「ふれあい報告書2011」に対する様々なご意見を頂戴いたしましたことを、この場をお借りして御礼を申し上げます。



当社が2012年に本報告書の印刷に使用した電力量(約1,000kWh)は、2012年3月に稼動したワタミの夢風車「風民」により発電されたグリーン電力でまかなわれています。ワタミの夢風車「風民」については、P12~13をご覧ください。



このCSR報告書は、ワタミ株式会社が印刷プロセスで使用する56.67kgのアルミ版をリユースして印刷する事で、**CO₂排出量を577.42kg削減しました。**

当CO₂削減量は株式会社日本スマートエナジー社がこの印刷システムを厳格・公正に審査・確認して与えられたものです。

MCP 0000
マイナスイオンカーボンプリンティングシステム

577.42kgのCO₂削減量とは樹齢50年(高さ22m・直径26cm)の杉の木約41.44本分が1年間に吸収するCO₂量に匹敵します。(出典：林業白書)

本報告書は、用紙はFSC認証林および管理された森林から製品化されたFSCミックス認証紙を用い、インキには有害なVOC(揮発性有機化合物)を排除しほぼ100%植物油を材料としたベジタブルインキを使用、印刷方式にはアルミ版をリユースする「マイナス、カーボンプリンティングシステム」を採用しています。製本用接着剤は古紙再生時に分離除去が容易なポリウレタン系の接着剤を使用しました。



環境省エコ・ファースト企業に

ワタミグループは、2010年5月31日、これまでの環境への姿勢と先進的な活動が評価されるとともに、これからも業界のトップランナーとして走ることを期待され、環境大臣から環境先進企業として「エコ・ファースト企業」の認定を受けました。

ワタミふれあいホームページ
<http://www.watami.co.jp>

本報告書に掲載されている内容は、「ワタミふれあいホームページ」でご覧になれます。

また、ワタミグループ各社および関連団体のホームページには、「ワタミふれあいホームページ」からアクセスできます。



東京都大田区羽田一丁目1番3号 (〒144-0043)
お問い合わせ先 TEL(03)5737-2784 FAX(03)5737-9552

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

